

**沖縄県立芸術大学基本計画に基づく
年度計画(平成 29 年度)PDCA の実施状況について**

(平成 30 年 6 月 28 日第 2 回評議会資料)

自己点検・評価委員会

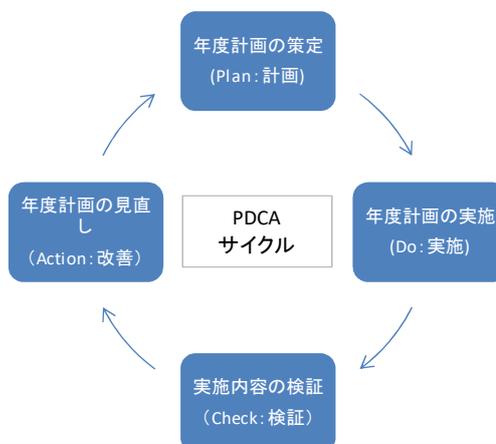
目 次

1	PDCA について.....	1
2	年度計画（平成 29 年度）の実施状況.....	1
3	年度計画（平成 29 年度）における取組みの推進状況.....	2
	(1) 「大幅遅れ」の取組みについて.....	2
	(2) 「未着手」の取組みについて.....	2
4	PDCA 検証結果について.....	3
	(1) 「学生収容定員の充足に関する取組」.....	3
	(2) 「大学の内部質保証システムの構築」について.....	4
	(3) 「教育の質の向上に関する取組」について.....	5
	(4) 「国際交流の活性化に関する取組」について.....	6
	(5) 「社会貢献・社会連携の充実強化に関する取組」について.....	6
	(6) 「大学運営に関する取組」について.....	7
5	年度計画（平成 30 年度）の PDCA 実施における留意点について.....	10
6	参考資料 ～関連指標の推移～.....	11
	(1) 美術工芸学部における総定員数、志願者数、在 student 数の推移.....	11
	(1)－1 絵画専攻における総定員数、志願者数、在 student 数の推移.....	13
	(1)－2 彫刻専攻における総定員数、志願者数、在 student 数の推移.....	15
	(1)－3 芸術学専攻における総定員数、志願者数、在 student 数の推移.....	17
	(1)－4 デザイン専攻における総定員数、志願者数、在 student 数の推移.....	19
	(1)－5 工芸専攻における総定員数、志願者数、在 student 数の推移.....	21

(2) 音楽学部における総定員数、志願者数、在学生数の推移	23
(2)－1 音楽表現専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	25
(2)－2 音楽文化専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	27
(2)－3 琉球芸能専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	29
(3) 大学院修士課程 造形芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移	31
(4) 大学院修士課程音楽芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移 ...	32
(5) 大学院後期博士課程 芸術文化科学研究科における総定員数、志願者数、在学生数の 推移	33
(6) 県計画関連指標	34
7 関係資料.....	36
(1) 沖縄県立芸術大学基本計画	36
(2) 沖縄県立芸術大学年度計画（平成 29 年度）	39

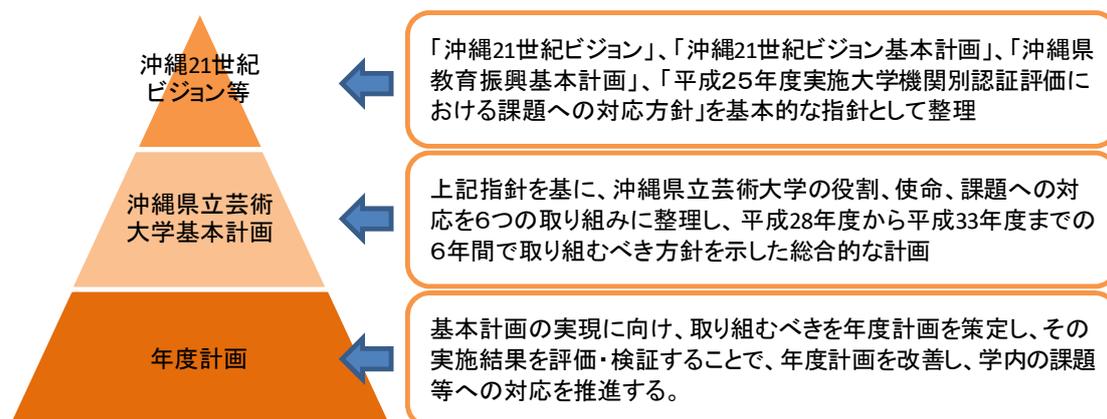
1 PDCAについて

沖縄県立芸術大学基本計画（以下「基本計画」という。）の着実な推進を図るため、各部署が年度計画で示した「取組内容」について、Plan(計画)、Do(実施)、Check(検証)、Action(改善)のいわゆるPDCAサイクルにより、毎年度、検証及び改善を継続的に行う。この結果を翌年度の年度計画に反映させることで、一時的な取組の評価にとどまらず、基本計画の効果的な推進へと繋げる。



2 年度計画(平成 29 年度)の実施状況

基本計画に基づき策定された年度計画（平成 29 年度）では、各部署で 115 件の取組みが実施され、その検証が行われた。



3 年度計画(平成 29 年度)における取組みの推進状況

年度計画に係る取組みにおいて「順調」及び「やや遅れ」は 102 件となり、全体の 9割程度となっていることから、年度計画として掲げた取組みは前進している。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
115	86	16	7	6
	74.8%	13.9%	6.1%	5.2%

○推進状況の区分

「順調」：年度別計画どおり又は前倒しで取組を推進している（概ね 80%以上）

「やや遅れ」：年度別計画と比較して若干の遅れがある（概ね 60%以上～80%未満）

「大幅遅れ」：年度別計画と比較して大幅に遅れている（概ね 60%未満）

「未着手」：年度別計画に示した活動に未着手

(1) 「大幅遅れ」の取組みについて

年度計画に係る取組みにおいて「大幅遅れ」は 7 件となっている。

大学院における長期履修修学生制度の導入や、音楽芸術研究科と音楽学部広報室の連携等について大幅遅れとの報告があった。

(2) 「未着手」の取組みについて

年度計画に係る取組みにおいて「未着手」は 6 件となっている。

美術工芸学部工芸専攻及び音楽芸術研究科において、ホームページの充実が計画通りに行われなかったことや、造形芸術研究科環境造形専攻における新教育カリキュラムの検討などが未着手となった。

4 PDCA 検証結果について

基本計画の項目毎に取組内容(Plan)を分類し、取組の状況(Do)を確認し、推進上の留意点などの内部要因、社会経済情勢の変化などの外部環境、事業スキームなどの改善余地を検証(Check)した上で、これらに対する改善案(Action)を検討した。

基本計画の大項目毎の検証結果は次のとおりとなっている。

(1) 「学生収容定員の充足に関する取組」

①主な取組内容(Plan)について

- ・造形芸術研究科において、社会人入学を促進するため、長期履修修学生制度導入を検討することが計画された。
- ・音楽表現専攻及び音楽文化専攻において、定員割れ状態にある専攻等の現状を検証し具体的対策を早急に講ずるため、受験生向けの講座の充実や、高校訪問などが計画された。
- ・音楽学部及び音楽芸術研究科において、志願者の減少を改善するため、現行入試制度や推薦入試の見直しなどが計画された。
- ・美術工芸学部デザイン専攻、工芸専攻、造形芸術研究科、音楽学部及び音楽芸術研究科において、本学の周知を図るため、「受験説明会」等への参加や、広報活動やホームページの充実などの取組みが計画された。

②主な取組の状況(Do)について

- ・取組の状況については、概ね前進しているものの「長期履修制度の導入」、「ホームページの充実」などの取組みが大幅遅れとなった。
- ・一部専攻等において、「ホームページを充実させる取組」が未着手となった。
- ・音楽芸術研究科において、10月実施の入学試験にて3名の欠員が生じたことから、2月下旬の学部一般入試の日程に合わせて欠員補充第2次募集を実施した。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
20	12	3	3	2
	60.0%	15.0%	15.0%	10.0%

③主な検証(Check)結果について

- ・長期履修修学生制度導入については、規程整備と併せて条例・学則等の改正が必要であり、本庁との調整をしつつ議論を進める必要がある。
- ・音楽文化専攻が高校へ訪問し説明する際、既存資料での説明では不明瞭となる状況がみられたことから、より魅力的に専攻を説明するための資料を作成する必要がある。
- ・音楽芸術研究科において、欠員補充第2次募集を実施したが、募集要項に明記し

ていない措置であったため、31 年度募集要項に実施可能性を明記する必要がある。

④主な改善案(Action) について

- ・音楽文化専攻では、高校訪問で魅力的な説明を行うため、新たに専攻の説明資料を作成し、学生収容定員の充足に向けた取組みを強化することが示された。
- ・音楽芸術研究科では、募集要項に欠員補充募集の実施可能性を明記することが示された。

(2) 「大学の内部質保証システムの構築」について

①主な取組内容(Plan)について

- ・全学的に、内部質保証の実施体制を確立するため、「全学的な PDCA サイクルの導入」、「授業評価アンケート及び演奏会アンケートの活用・蓄積」などが計画された。

②主な取組の状況(Do) について

- ・年度計画の策定から検証について、若干遅れが生じたものの取組を推進することが出来た。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
3	2	1	0	0
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%

③主な検証(Check) 結果について

- ・検証のため個票を作成する必要があるとあり、要領を作成の上で依頼しているものの、練度が足りないためか、作成者によって内容に差が生じるなどの状況がある。
- ・検証のための個票の総括について、事務局の関わり方について検討が必要である。
- ・全学委員会の取組みを年度計画に反映出来ていない。
- ・平成 32 年度受審の認証評価に向けて、学内の状況を中間評価として取りまとめる必要がある。

④主な改善案(Action) について

- ・取組みの検証内容に差が生じないように、検証のための個票の作成趣旨を改めて周知することが示された。
- ・年度計画（平成 30 年度）に全学委員会の取組みを反映させるよう、計画策定スキームの見直しを行うことが示された。
- ・平成 25 年度の認証評価受審以降の状況を取りまとめるため、中間評価を実施することが示された。

③ 「教育の質の向上に関する取組」について

① 主な取組内容 (Plan) について

- ・ 絵画専攻において、教育内容の質の向上を目指すため、実技基礎力の明確化と検証、教員間の関係の強化が計画された。
- ・ 附属研究所において、しまくとぅばを取り入れた授業を専攻で実践するほか、芸能で使われる独特の語彙を集めるなど教材の作成に向けた取組や、講演会等の実施が計画された。
- ・ 全学教育センターにおいて、全学教育科目のカリキュラムおよび各科目の検証を実施するとともに、初年次教育科目の新設に向けた内容・方法検討が計画された。
- ・ 大学院彫刻専修において、女子美術大学と本学学生の協働による交流展を開催し、社会性と多様な表現のあり方を学ぶ場を共有することが計画された。
- ・ 学生部において、障がい学生に対する支援体制を充実させるとともに、教職員を対象とした研修や情報共有を図ることが計画された。

② 主な取組の状況 (Do) について

- ・ 取組の状況については、概ね前進しているものの、音楽文化専攻において琉球芸能と洋楽を融合させた新たな音楽の方法の模索や、大学院環境造形専攻において2専修の学生が合同で受講できるような特色ある共通授業のカリキュラム開発等が「未着手」となった。
- ・ 大学院デザイン専修において単位互換を、国内他大学に広げることについての検討や、絵画専修において女子美との単位交換プログラムのカリキュラムの検討について取組に着手したものの「大幅遅れ」となった。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
53	37	9	4	3
	69.8%	17.0%	7.5%	5.7%

③ 主な検証 (Check) 結果について

- ・ 大学院環境造形専攻における共通授業カリキュラムの開発の端緒として、絵画専修内において、日本画分野学生が油画分野の授業発表に参加するなど共通授業として合同で取り組んだ。
- ・ 学生部における障がい学生に対する支援体制について、差別解消法施行に伴う学内における支援体制について学内規程等を策定したが、今後も引き続き学内における支援体制の充実を図る必要がある。

④ 主な改善案 (Action) について

- ・ 大学院環境造形専攻における共通授業カリキュラムの開発について、今後必修、選択の枠を問わず再実施の可能性を継続して検討することが示された。

(4) 「国際交流の活性化に関する取組」について

①主な取組内容(Plan)について

- ・美術工芸学部では、新たな姉妹校締結についての調査や、絵画専攻では国際交流展「版と言葉」展の開催が計画された。
- ・美術工芸学部では、沖縄県立芸術大学&国立台湾藝術大學学术交流協定締結記念「沖縄・台湾芸術大学交流展」の開催が、大学院造形芸術研究科では、台北藝術大學との教員の相互派遣事業 “2017 Exchange Workshop for Sculpture Arts in TNUA” の実施が計画された。
- ・音楽学部音楽文化専攻では、福建師範大学から留学生の受け入れが計画された。

②主な取組の状況(Do) について

- ・取組の状況については、順調に進捗している。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
16	16	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③主な検証(Check) 結果について

- ・台湾藝術大學との交流の実質化について、台湾藝大の教員及び教育の情報を一層把握するために、教員同士の継続的な交流が必要である。そのためにも、次年度の台湾展の機会は重要であり、将来につながる構想を持って臨む必要がある。

④主な改善案(Action) について

- ・台湾藝術大學との交流の実質化について、継続して実施していくため事業の承認プロセスの迅速化と各組織及び担当者等の役割分担と責任の所在を明確にしておくことが示された。

(5) 「社会貢献・社会連携の充実強化に関する取組」について

①主な取組内容(Plan)について

- ・芸術学専攻及び工芸専攻（織分野）では、イタリアサルデーニャ島織物についてのドキュメンタリー映画の上映会が計画された。
- ・音楽学部・音楽芸術研究科においては、教員・学生により数多く行われている社会貢献やボランティア活動の情報を県民に共有するため、社会連携室との意見交換が計画された。
- ・音楽表現専攻では、地域の合奏団や県内小中高等学校、沖縄県吹奏楽連盟などとの連携強化が計画された。
- ・附属研究所においては、地域とのネットワークを構築、地域住民や児童生徒に、

芸術文化とふれあう機会を創出や、本学が持つ芸術分化の研究成果を還元することを目的に移動大学が計画された。また、広く県民に教育研究成果の還元を図るため文化講座・公開講座が計画された。

②主な取組の状況(Do) について

- ・取組の状況については、概ね前進しているものの、音楽学部・音楽芸術研究科が計画した社会連携室との意見交換が「未着手」となった。
- ・芸術学専攻及び工芸専攻（織分野）が県立博物館美術館で実施した、イタリアサルデーニャ島織物についてのドキュメンタリー映画の上映会においては、上映後に伝統工芸と現代アートとの関係をテーマにラウンドテーブルを行うなど、国際交流と併せて県民へ研究成果の還元を行った。
- ・音楽表現専攻では、地域の合奏団や県内小中高等学校、沖縄県吹奏楽連盟などとの連携強化として、開邦高校との合同演奏会や、吹奏楽コンクールへ審査員の派遣などの取組を実施した。
- ・附属研究所が大宜見村で実施した移動大学では、児童生徒を主な対象として美術工芸や音楽に関する教室や公演を開催し、本学の芸術文化に関する教育研究蓄積を県民に還元した。また、文化講座・公開講座においては、琉球・沖縄芸術の構造やガムラン等の講座を43回開催し、延べ2,382名の受講があった。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
14	12	1	0	1
	85.7%	7.1%	0.0%	7.1%

③主な検証(Check) 結果について

- ・音楽学部・音楽芸術研究科において、教員・学生により数多く行われている社会貢献やボランティア活動の情報を県民に共有する必要がある。

④主な改善案(Action) について

- ・社会連携室の果たす役割について、再確認し、運営方針の改正などについて検討することが示された。

⑥ 「大学運営に関する取組」について

①主な取組内容(Plan)について

- ・FD委員会において、公開授業の実施や授業評価アンケート、研修会の実施が計画された。
- ・全学委員会として、SDに係る委員会を設置し、研修計画を策定することが計画された。
- ・音楽学部では、FD・SD活動として、新任教員に効率よく業務伝達を行うため

の取組が計画された。

- ・事務局では、評議会外部オブザーバーを活用するため評議会の議題の整理や運営方法の検討が計画された。

②主な取組の状況(Do) について

- ・取組の状況については、概ね順調に進捗している。
- ・FD委員会において、実施要領を定め公開授業を実施したほか、前期・後期に授業評価アンケートを実施した。また、発達障がい学生に対する支援について講習会を実施した。
- ・SD活動を推進するため、平成29年4月にSD推進委員会を設置し、研修計画を策定した。また、平成29年12月にSD研修会を開催した。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
9	7	2	0	0
	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%

③主な検証(Check) 結果について

- ・FD委員会の授業評価アンケートの集計に時間を要し、集計結果の周知時期に遅れが生ずることから、マークシート方式に変更するなどの対策をとったが、実際の運用により更なる検証が必要である。
- ・SD推進委員会が実施したSD研修会について、参加人数が少なく、アンケートの回収についても課題が残った。アンケート結果に基づく開催時期の見直し等が必要である。
- ・評議会の外部オブザーバーについて、外部から見た芸大について意見をいただく重要な機会であるが、評議会での審議事項、報告事項のほとんどが外部からの意見をいただくに当たらない案件が多く含まれており、開催方法について検討が必要である。また、評議会で提示する資料が部局長会議を経て決定されるため、配付が直前となってしまうことが多く、普段学内の情報を得る機会がない外部オブザーバーが本学の状況を理解できるよう、適切な資料作成や事前配布に努める必要がある。

④主な改善案(Action) について

- ・FD委員会においては、課題である授業評価アンケートの取扱を検討しながら、引き続き、公開授業の実施や授業評価アンケート、研修会の実施を行うことが示された。
- ・SD推進委員会においては、アンケート結果に基づいた研修計画を策定し、適切に研修会を開催することが示された。
- ・音楽学部では、新任教員だけでなく、全ての教員への研修の機会を持つため、毎

月教授会前に、ミニSD研修を実施する。また、FD活動としての授業公開への参加教員を増やす取組を行うことが示された。

- ・事務局では、評議会で適切な資料作成や事前配布に努め、外部オブザーバーから本学に有益な意見をいただけるよう、効果的・効率的な運営を図ることが示された。

5 年度計画(平成 30 年度)の PDCA 実施における留意点について

平成 29 年度の年度計画 PDCA の実施状況を踏まえ、平成 30 年度の年度計画検証を行う際は、下記に留意して実施すること。

(1) 年度計画への明記

原則として、基本計画に沿った取組みについて、学部等（各種委員会等を含む）組織単位の年度計画としてそれぞれ個票を作成し、実施、検証・評価を行うこと。

(2) 年度計画の改善

推進状況が「順調」であっても、取組みの検証（振り返り）を行い、改善が必要な事項を可能な限り明記し、翌年度の計画へ反映すること。

(3) 取組みの「見える化」によるノウハウの蓄積

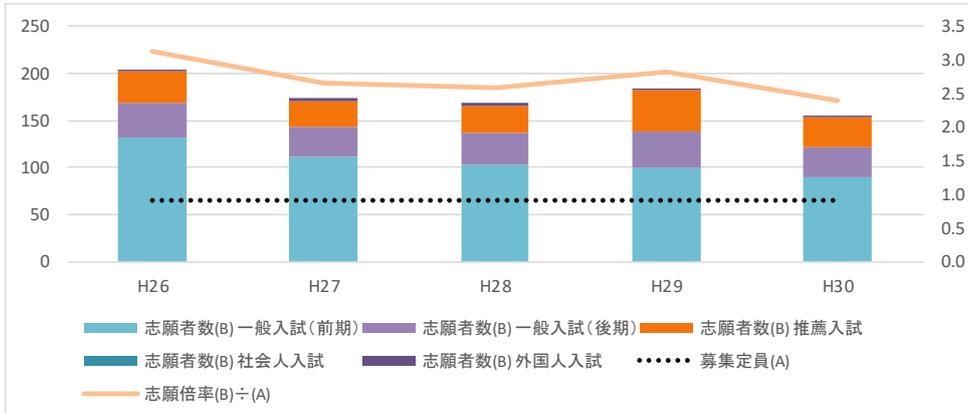
取組ごとに個票を作成することにより、取組みの内容、振り返りによる反省・改善点などが蓄積され、他の専攻等で類似した取組みを行う際に参考とすることが出来る。また、個票を提出前直前に記載すると、必要な情報が抜け落ちる可能性もあることから、取組の実施完了後に速やかに検証し、適宜記載を行うこと。

6 参考資料 ～関連指標の推移～

(1) 美術工芸学部における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○美術工芸学部 募集定員及び志願者数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	65	65	65	65	65
一般入試(前期)	46	46	46	45	45
一般入試(後期)	7	7	7	6	6
推薦入試	12	12	12	14	14
社会人入試	0	0	0	0	0
外国人入試	0	0	0	0	0
志願者数(B)	204	173	168	184	156
一般入試(前期)	131	111	103	100	89
一般入試(後期)	37	32	34	39	32
推薦入試	34	28	28	44	32
社会人入試	0	0	0	0	0
外国人入試	2	2	3	1	3
志願倍率(B)÷(A)	3.1	2.7	2.6	2.8	2.4

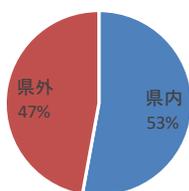


○美術工芸学部 H30 一般入試志願者数の傾向

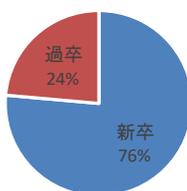
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	47	42	68	21	27	62
一般入試(後期)	8	24	20	12	13	19

◇一般入試(前期)

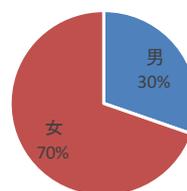
県内・県外比



新卒・過卒比

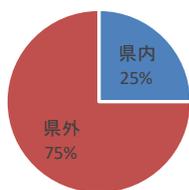


男女比

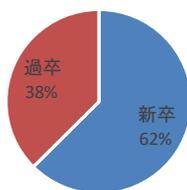


◇一般入試(後期)

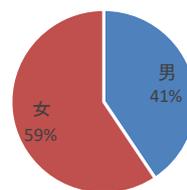
県内・県外比



新卒・過卒比

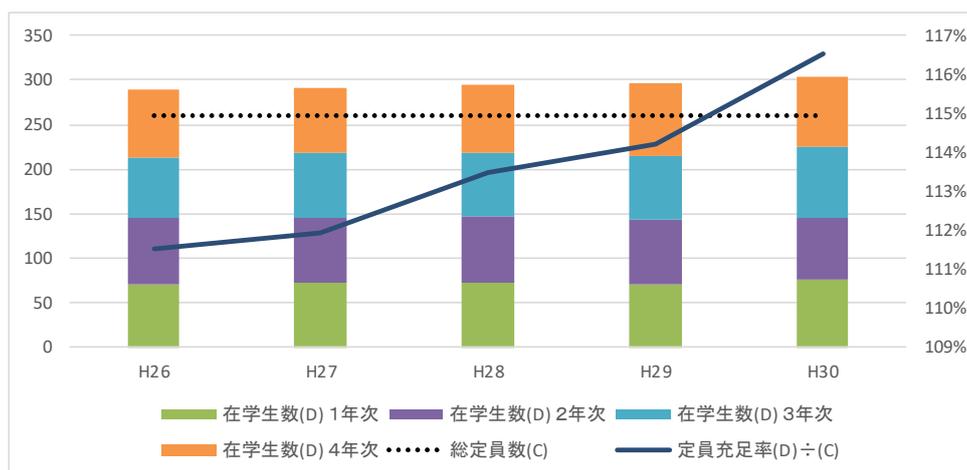


男女比



○美術工芸学部 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	260	260	260	260	260
在学生数(D)	290	291	295	297	303
1年次	71	72	72	71	76
2年次	74	73	75	72	69
3年次	68	73	72	72	80
4年次	77	73	76	82	78
定員充足率(D)÷(C)	112%	112%	113%	114%	117%

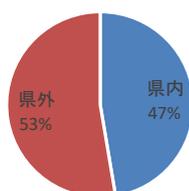


○美術工芸学部 H30 在学生の比率

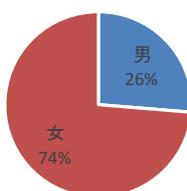
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	36	40	20	56
2年次	39	30	19	50
3年次	39	41	20	60
4年次	36	42	20	58

◇ 1年次

県内・県外比

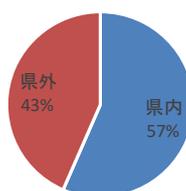


男女比

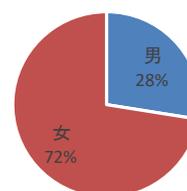


◇ 2年次

県内・県外比

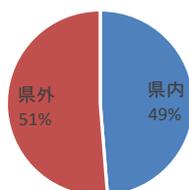


男女比

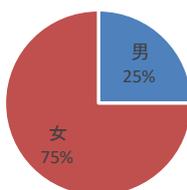


◇ 3年次

県内・県外比

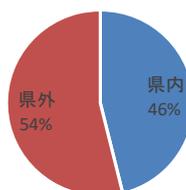


男女比

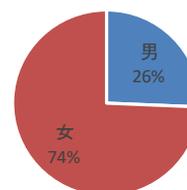


◇ 4年次

県内・県外比



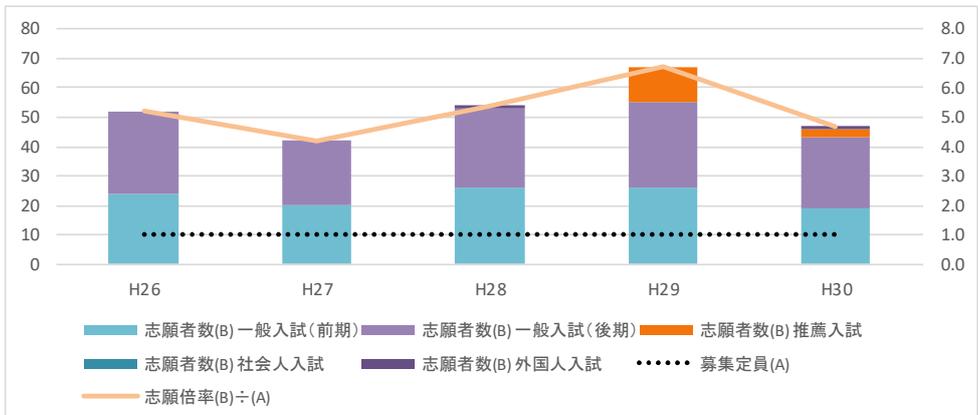
男女比



(1)ー1 絵画専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○絵画専攻 募集定員及び志願者数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	10	10	10	10	10
一般入試(前期)	5	5	5	4	4
一般入試(後期)	5	5	5	4	4
推薦入試	—	—	—	2	2
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	若干名	—	若干名
志願者数(B)	52	42	54	67	47
一般入試(前期)	24	20	26	26	19
一般入試(後期)	28	22	27	29	24
推薦入試	—	—	—	12	3
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	1	—	1
志願倍率(B)÷(A)	5.2	4.2	5.4	6.7	4.7

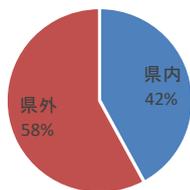


○絵画専攻 H30 一般入試志願者数の傾向

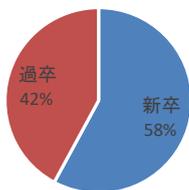
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	8	11	11	8	8	11
一般入試(後期)	8	16	12	12	9	15

◇一般入試(前期)

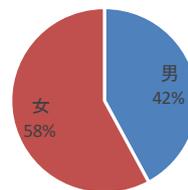
県内・県外比



新卒・過卒比

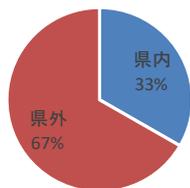


男女比

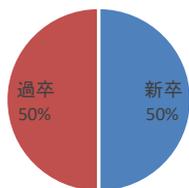


◇一般入試(後期)

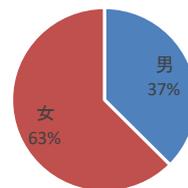
県内・県外比



新卒・過卒比

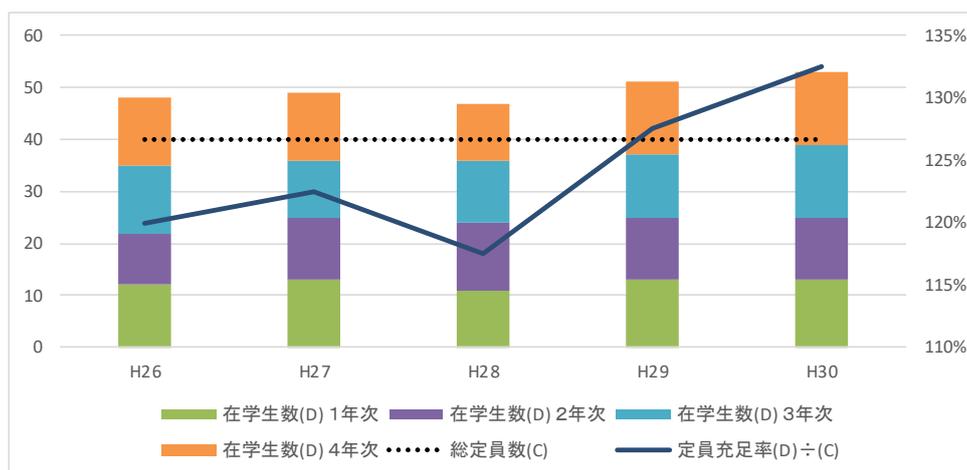


男女比



○絵画専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	40	40	40	40	40
在学生数(D)	48	49	47	51	53
1年次	12	13	11	13	13
2年次	10	12	13	12	12
3年次	13	11	12	12	14
4年次	13	13	11	14	14
定員充足率(D)÷(C)	120%	123%	118%	128%	133%

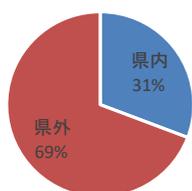


○絵画専攻 H30 在学生の比率

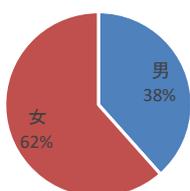
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	4	9	5	8
2年次	6	6	3	9
3年次	6	8	1	13
4年次	4	10	5	9

◇ 1年次

県内・県外比

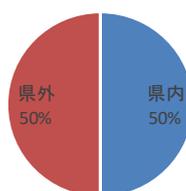


男女比

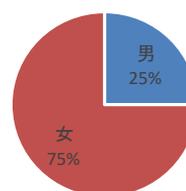


◇ 2年次

県内・県外比

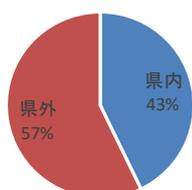


男女比

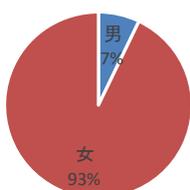


◇ 3年次

県内・県外比



男女比

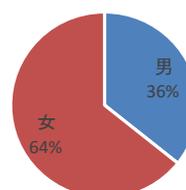


◇ 4年次

県内・県外比



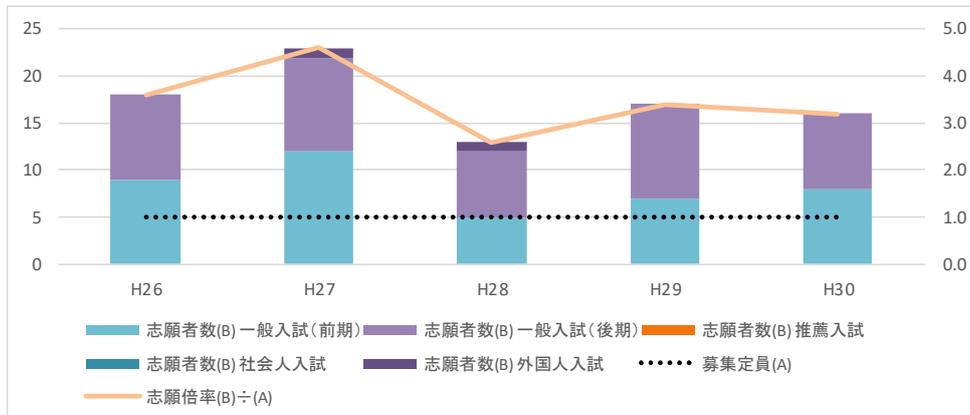
男女比



(1)－2 彫刻専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○彫刻専攻 募集定員及び志願者数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	5	5	5	5	5
一般入試(前期)	3	3	3	3	3
一般入試(後期)	2	2	2	2	2
推薦入試	—	—	—	—	—
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	若干名	若干名	—	—
志願者数(B)	18	23	13	17	16
一般入試(前期)	9	12	5	7	8
一般入試(後期)	9	10	7	10	8
推薦入試	—	—	—	—	—
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	1	1	—	—
志願倍率(B)÷(A)	3.6	4.6	2.6	3.4	3.2

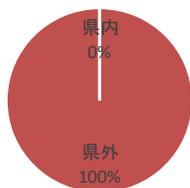


○彫刻専攻 H30 一般入試志願者数の傾向

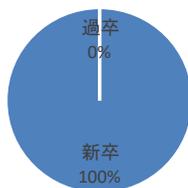
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	0	8	8	0	3	5
一般入試(後期)	0	8	8	0	4	4

◇一般入試(前期)

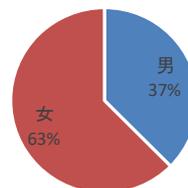
県内・県外比



新卒・過卒比

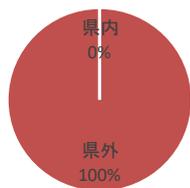


男女比

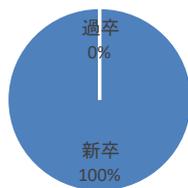


◇一般入試(後期)

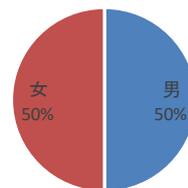
県内・県外比



新卒・過卒比

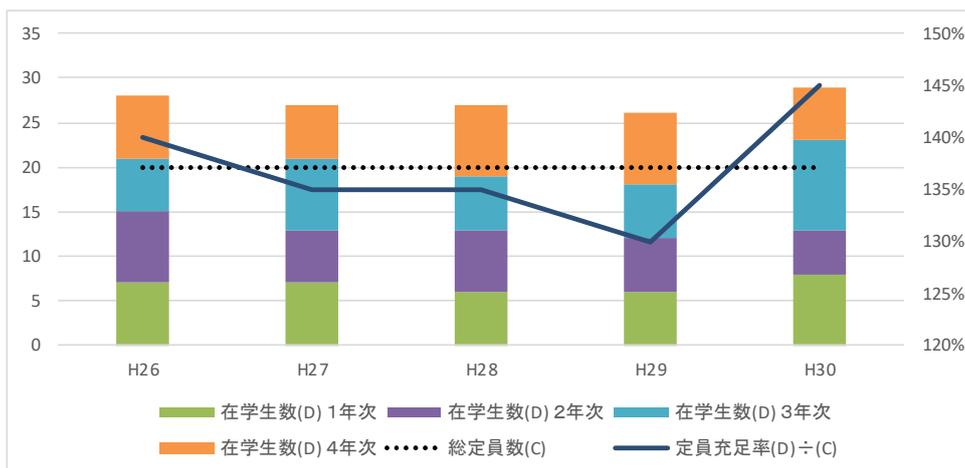


男女比



○彫刻専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	20	20	20	20	20
在学生数(D)	28	27	27	26	29
1年次	7	7	6	6	8
2年次	8	6	7	6	5
3年次	6	8	6	6	10
4年次	7	6	8	8	6
定員充足率(D)÷(C)	140%	135%	135%	130%	145%



○彫刻専攻 H30 在学生の比率

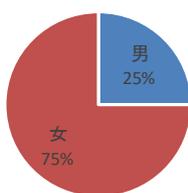
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	0	8	2	6
2年次	2	3	3	2
3年次	1	9	7	3
4年次	1	5	4	2

◇ 1年次

県内・県外比

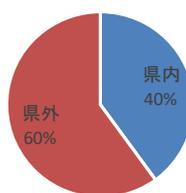


男女比

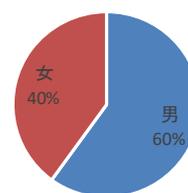


◇ 2年次

県内・県外比



男女比

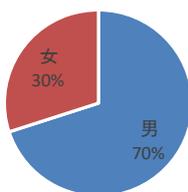


◇ 3年次

県内・県外比

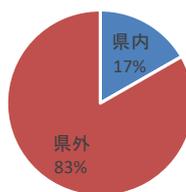


男女比

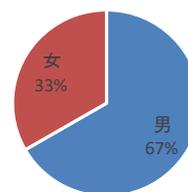


◇ 4年次

県内・県外比



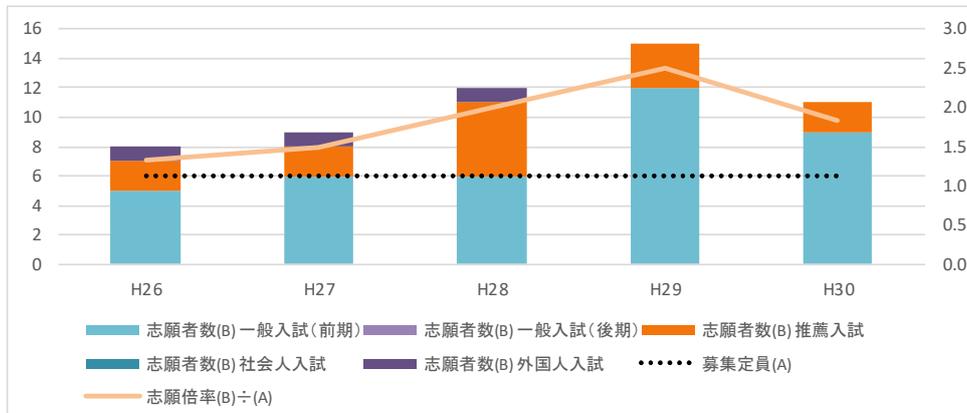
男女比



(1)－3 芸術学専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○芸術学専攻 募集定員及び志願者数の推移

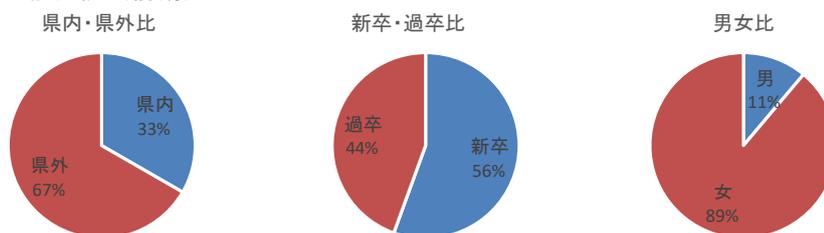
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	6	6	6	6	6
一般入試(前期)	4	4	4	4	4
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	2	2	2	2	2
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	若干名	若干名	若干名	—	—
志願者数(B)	8	9	12	15	11
一般入試(前期)	5	6	6	12	9
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	2	2	5	3	2
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	1	1	1	—	—
志願倍率(B)÷(A)	1.3	1.5	2.0	2.5	1.8



○芸術学専攻 H30 一般入試志願者数の傾向

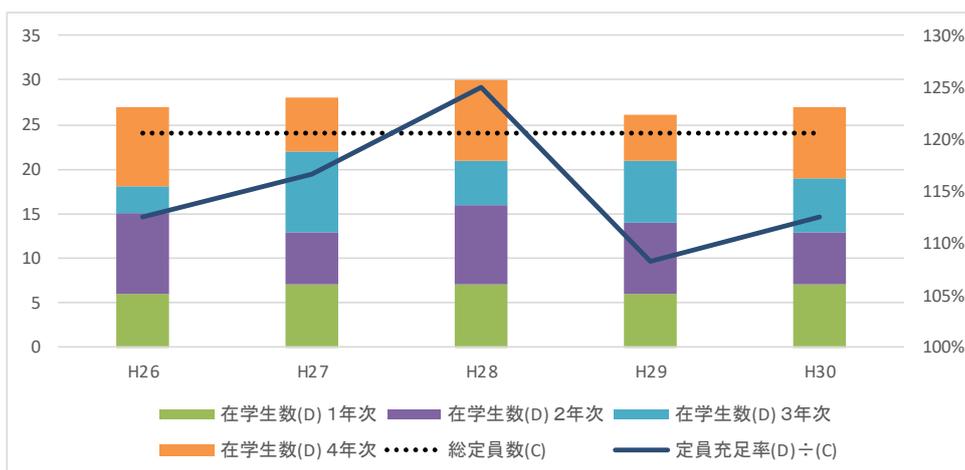
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	3	6	5	4	1	8
一般入試(後期)	—	—	—	—	—	—

◇一般入試(前期)



○芸術学専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	24	24	24	24	24
在学生数(D)	27	28	30	26	27
1年次	6	7	7	6	7
2年次	9	6	9	8	6
3年次	3	9	5	7	6
4年次	9	6	9	5	8
定員充足率(D)÷(C)	113%	117%	125%	108%	113%



○芸術学専攻 H30 在学生の比率

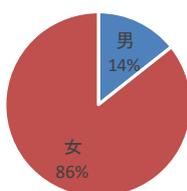
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	0	7	1	6
2年次	2	4	2	4
3年次	1	5	1	5
4年次	1	7	3	5

◇ 1年次

県内・県外比

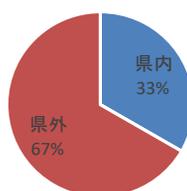


男女比

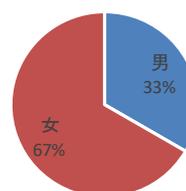


◇ 2年次

県内・県外比

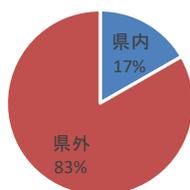


男女比

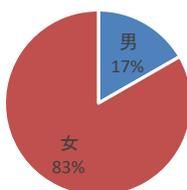


◇ 3年次

県内・県外比

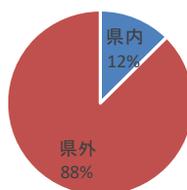


男女比

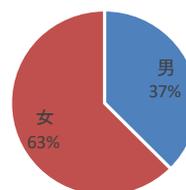


◇ 4年次

県内・県外比



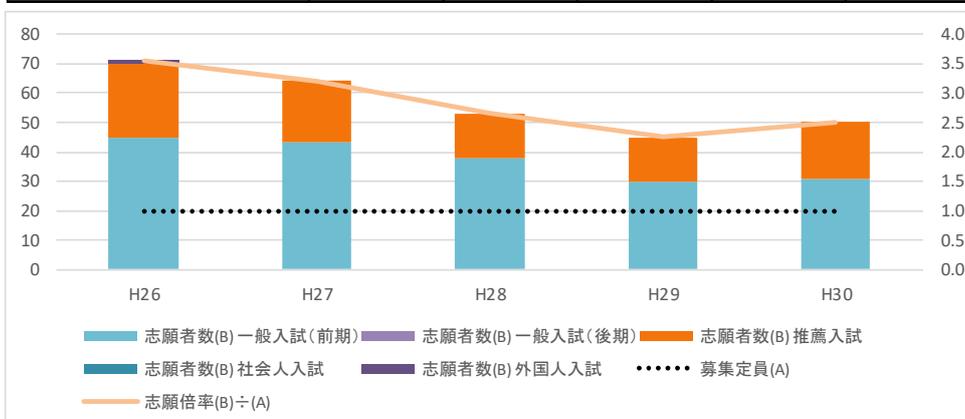
男女比



(1)ー4 デザイン専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○デザイン専攻 募集定員及び志願者数の推移

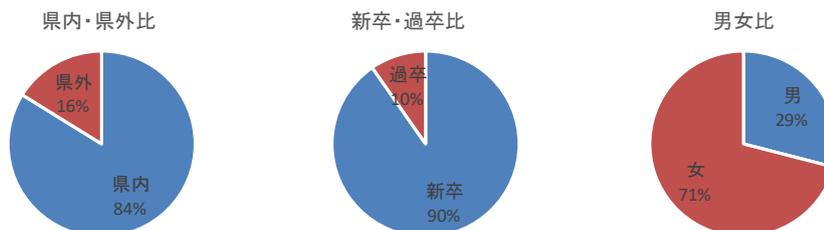
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	20	20	20	20	20
一般入試(前期)	16	16	16	16	16
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	4	4	4	4	4
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	若干名	—	—	—	—
志願者数(B)	71	64	53	45	50
一般入試(前期)	45	43	38	30	31
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	25	21	15	15	19
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	1	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)	3.6	3.2	2.7	2.3	2.5



○デザイン専攻H30 一般入試志願者数の傾向

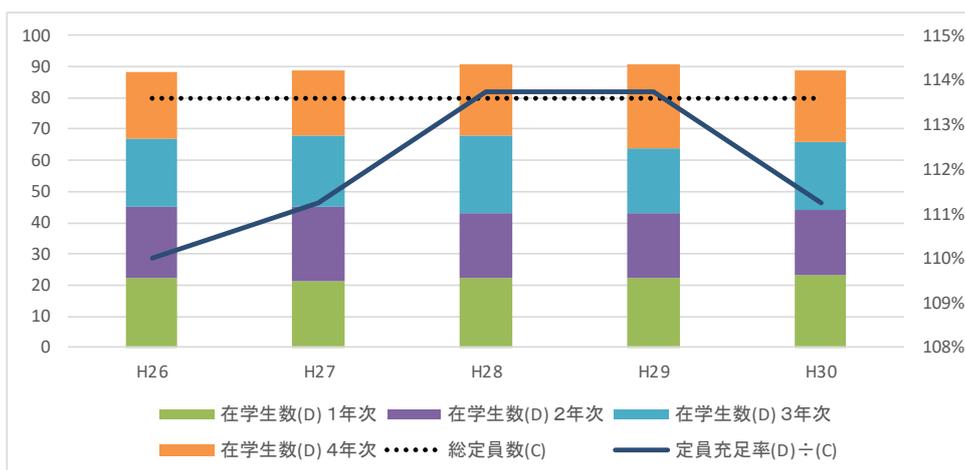
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	26	5	28	3	9	22
一般入試(後期)	—	—	—	—	—	—

◇一般入試(前期)



○デザイン専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	80	80	80	80	80
在学生数(D)	88	89	91	91	89
1年次	22	21	22	22	23
2年次	23	24	21	21	21
3年次	22	23	25	21	22
4年次	21	21	23	27	23
定員充足率(D)÷(C)	110%	111%	114%	114%	111%

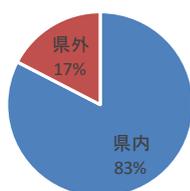


○デザイン専攻H30 在学生の比率

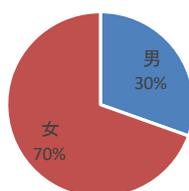
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	19	4	7	16
2年次	17	4	5	16
3年次	19	3	3	19
4年次	20	3	3	20

◇ 1年次

県内・県外比

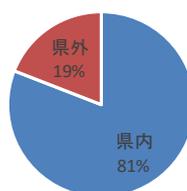


男女比

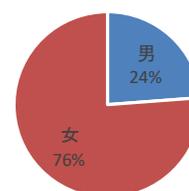


◇ 2年次

県内・県外比

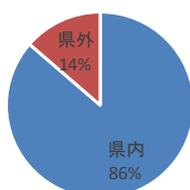


男女比



◇ 3年次

県内・県外比

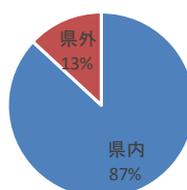


男女比

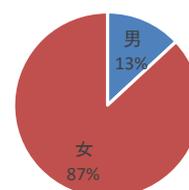


◇ 4年次

県内・県外比



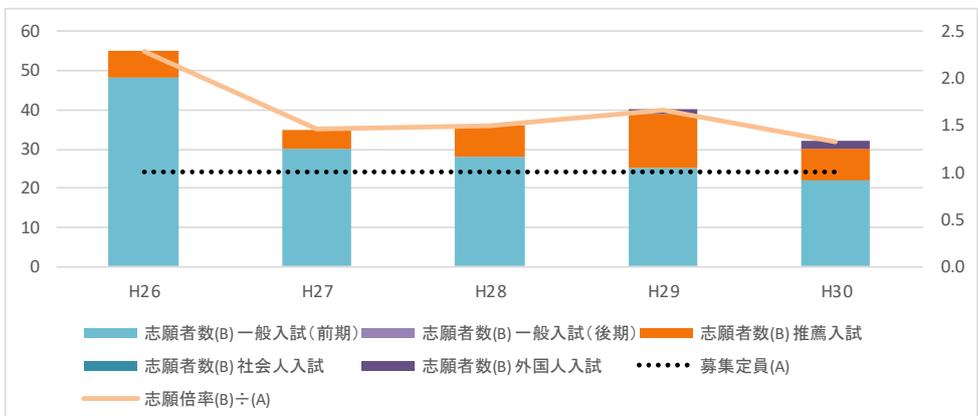
男女比



(1)ー5 工芸専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○工芸専攻 募集定員及び志願者数の推移

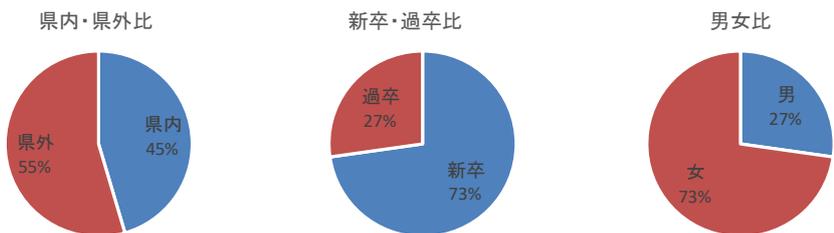
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	24	24	24	24	24
一般入試(前期)	18	18	18	18	18
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	6	6	6	6	6
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	若干名	若干名
志願者数(B)	55	35	36	40	32
一般入試(前期)	48	30	28	25	22
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	7	5	8	14	8
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	1	2
志願倍率(B)÷(A)	2.3	1.5	1.5	1.7	1.3



○工芸専攻 H30 一般入試志願者数の傾向

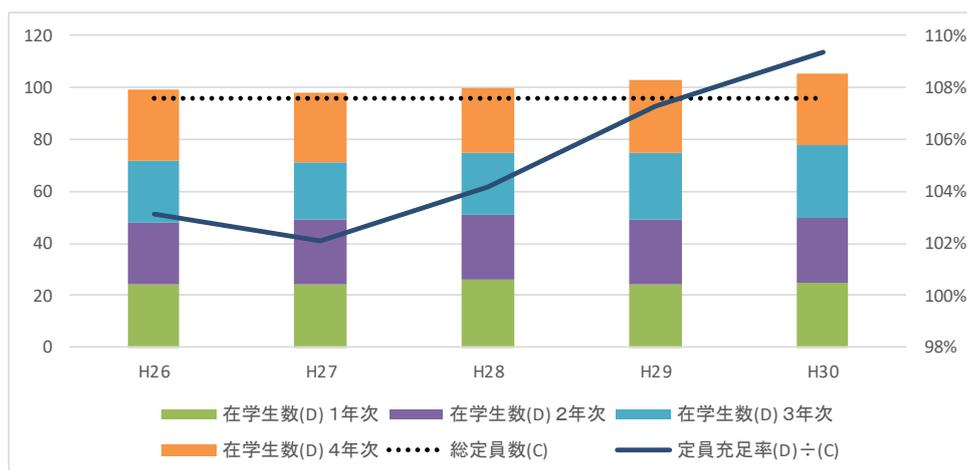
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	10	12	16	6	6	16
一般入試(後期)	—	—	—	—	—	—

◇一般入試(前期)



○工芸専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	96	96	96	96	96
在学生数(D)	99	98	100	103	105
1年次	24	24	26	24	25
2年次	24	25	25	25	25
3年次	24	22	24	26	28
4年次	27	27	25	28	27
定員充足率(D)÷(C)	103%	102%	104%	107%	109%

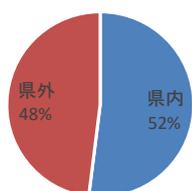


○工芸専攻 H30 在学生の比率

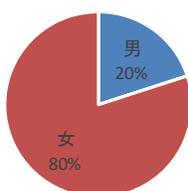
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	13	12	5	20
2年次	12	13	6	19
3年次	12	16	8	20
4年次	10	17	5	22

◇ 1年次

県内・県外比

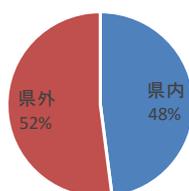


男女比

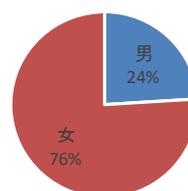


◇ 2年次

県内・県外比

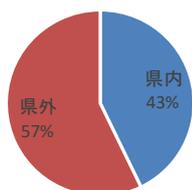


男女比

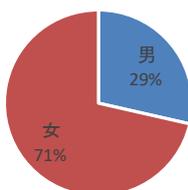


◇ 3年次

県内・県外比

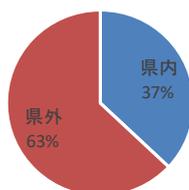


男女比

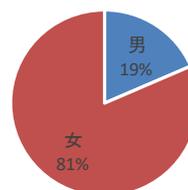


◇ 4年次

県内・県外比



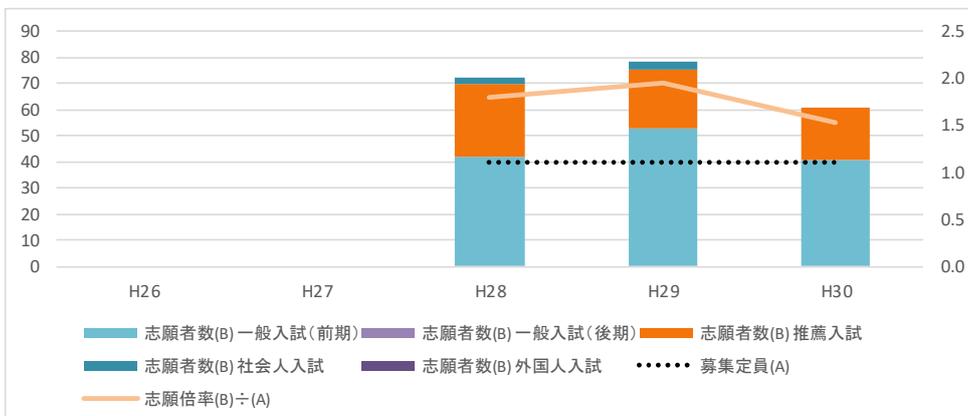
男女比



(2) 音楽学部における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○音楽学部 募集定員及び志願者数の推移

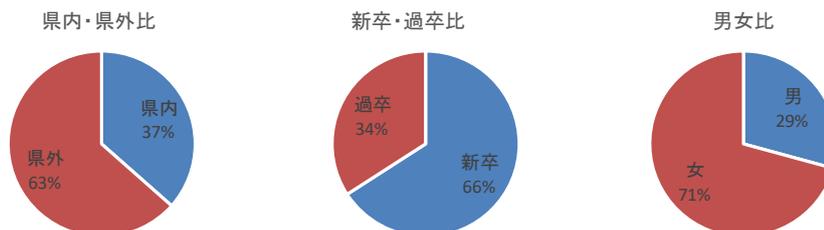
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)			40	40	40
一般入試(前期)	—	—	26	26	26
一般入試(後期)	—	—	0	0	0
推薦入試	—	—	14	14	14
社会人入試	—	—	0	0	0
外国人入試	—	—	0	0	0
志願者数(B)			72	78	61
一般入試(前期)	—	—	42	53	41
一般入試(後期)	—	—	0	0	0
推薦入試	—	—	28	22	20
社会人入試	—	—	2	3	0
外国人入試	—	—	0	0	0
志願倍率(B)÷(A)			1.8	2.0	1.5



○音楽学部 H30 一般入試志願者数の傾向

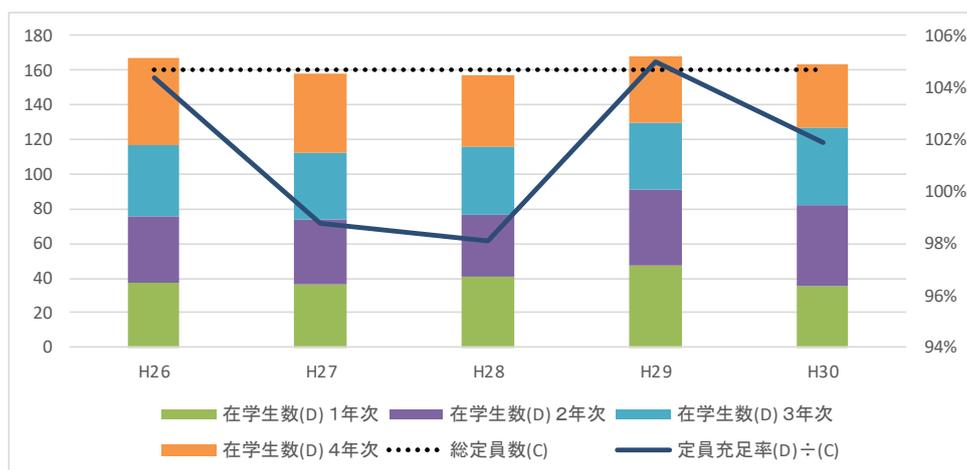
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	15	26	27	14	12	29
一般入試(後期)	0	0	0	0	0	0

◇一般入試(前期)



○音楽学部 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	160	160	160	160	160
在学生数(D)	167	158	157	168	163
1年次	37	36	41	47	35
2年次	39	38	36	44	47
3年次	41	38	39	39	45
4年次	50	46	41	38	36
定員充足率(D)÷(C)	104%	99%	98%	105%	102%

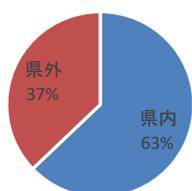


○音楽学部 H30 在学生の比率

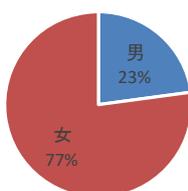
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	22	13	8	27
2年次	19	28	12	35
3年次	26	19	13	32
4年次	22	14	9	27

◇ 1年次

県内・県外比

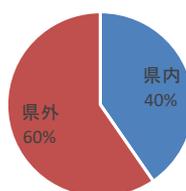


男女比

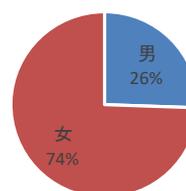


◇ 2年次

県内・県外比

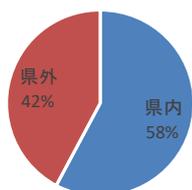


男女比

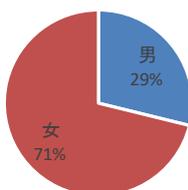


◇ 3年次

県内・県外比

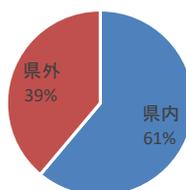


男女比

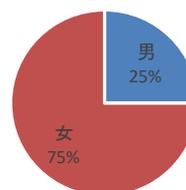


◇ 4年次

県内・県外比



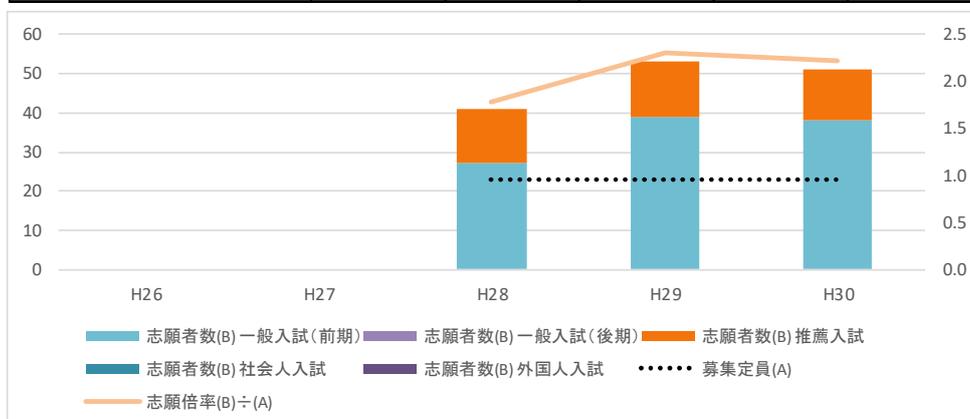
男女比



(2)ー1 音楽表現専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○音楽表現専攻 募集定員及び志願者数の推移

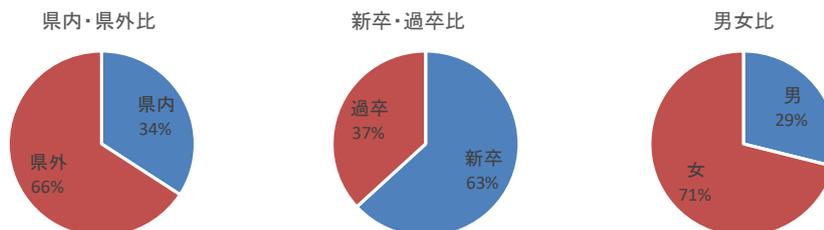
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)			23	23	23
一般入試(前期)	—	—	17	17	17
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	—	—	6	6	6
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願者数(B)			41	53	51
一般入試(前期)	—	—	27	39	38
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	—	—	14	14	13
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)			1.8	2.3	2.2



○音楽表現専攻 H30 一般入試志願者数の傾向

	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	13	25	24	14	11	27
一般入試(後期)	—	—	—	—	—	—

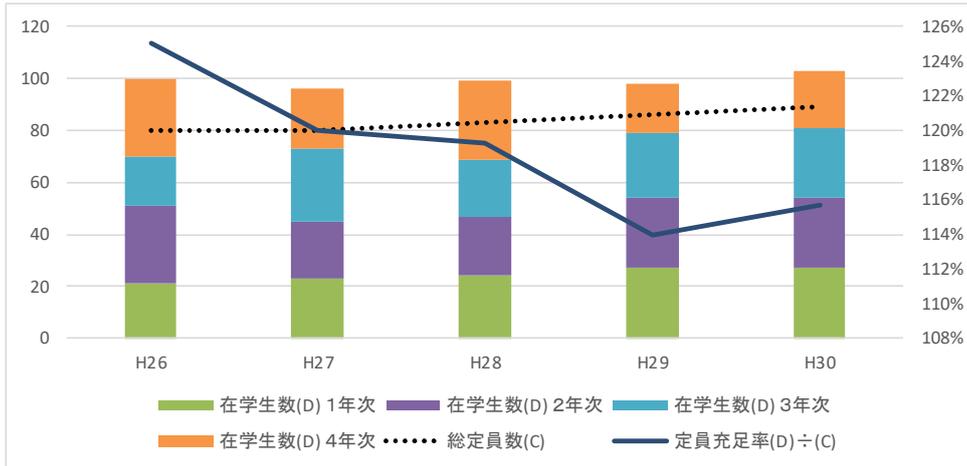
◇一般入試(前期)



○音楽表現専攻 総定員数及び在学生数の推移

※学部再編に伴い、色付きの箇所は「声楽、器楽専攻」の情報が含まれています。

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	80	80	83	86	89
在学生数(D)	100	96	99	98	103
1年次	21	23	24	27	27
2年次	30	22	23	27	27
3年次	19	28	22	25	27
4年次	30	23	30	19	22
定員充足率(D)÷(C)	125%	120%	119%	114%	116%

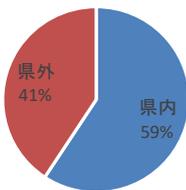


○音楽表現専攻 H30 在学生の比率

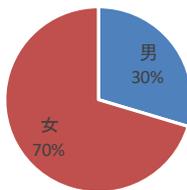
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	16	11	8	19
2年次	7	20	5	22
3年次	12	15	6	21
4年次	11	11	7	15

◇ 1年次

県内・県外比

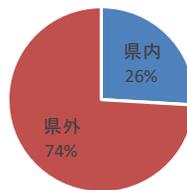


男女比

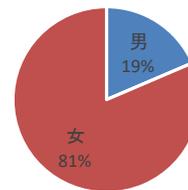


◇ 2年次

県内・県外比

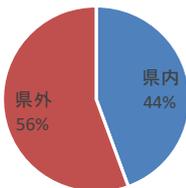


男女比

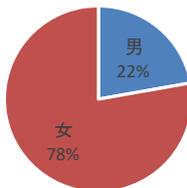


◇ 3年次

県内・県外比

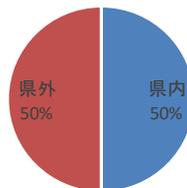


男女比

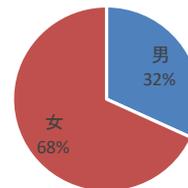


◇ 4年次

県内・県外比



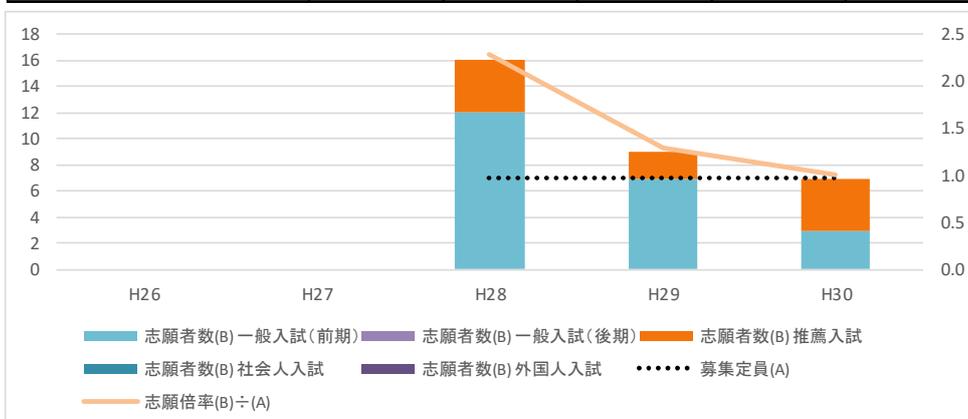
男女比



(2)ー2 音楽文化専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○音楽文化専攻 募集定員及び志願者数の推移

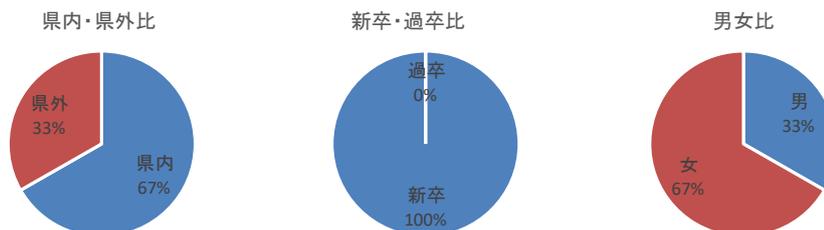
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)			7	7	7
一般入試(前期)	—	—	4	4	4
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	—	—	3	3	3
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願者数(B)			16	9	7
一般入試(前期)	—	—	12	7	3
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	—	—	4	2	4
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)			2.3	1.3	1.0



○音楽文化専攻H30 一般入試志願者数の傾向

	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	2	1	3	0	1	2
一般入試(後期)	—	—	—	—	—	—

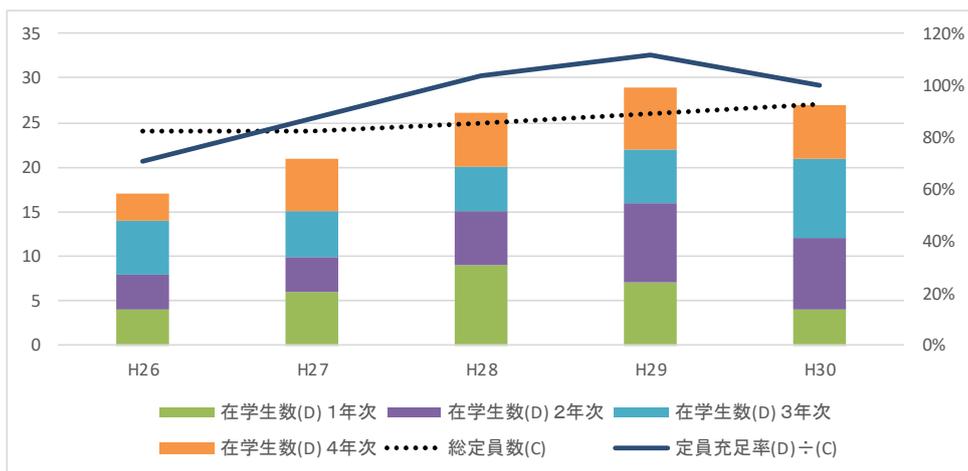
◇一般入試(前期)



○音楽文化専攻 総定員数及び在学生数の推移

※学部再編に伴い、色付きの箇所は「音楽学専攻」の情報が含まれています。

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	24	24	25	26	27
在学生数(D)	17	21	26	29	27
1年次	4	6	9	7	4
2年次	4	4	6	9	8
3年次	6	5	5	6	9
4年次	3	6	6	7	6
定員充足率(D)÷(C)	71%	88%	104%	112%	100%

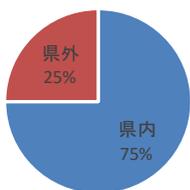


○音楽文化専攻 H30 在学生の比率

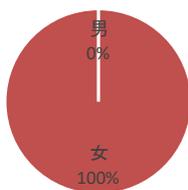
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	3	1	0	4
2年次	4	4	3	5
3年次	6	3	3	6
4年次	3	3	1	5

◇ 1年次

県内・県外比

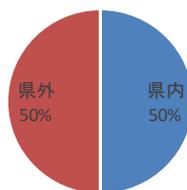


男女比

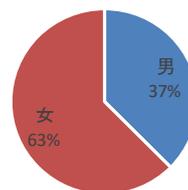


◇ 2年次

県内・県外比

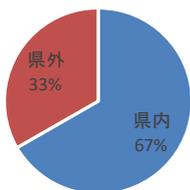


男女比

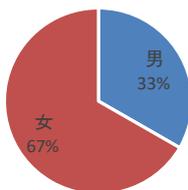


◇ 3年次

県内・県外比

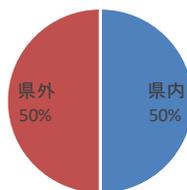


男女比

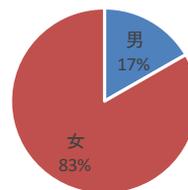


◇ 4年次

県内・県外比



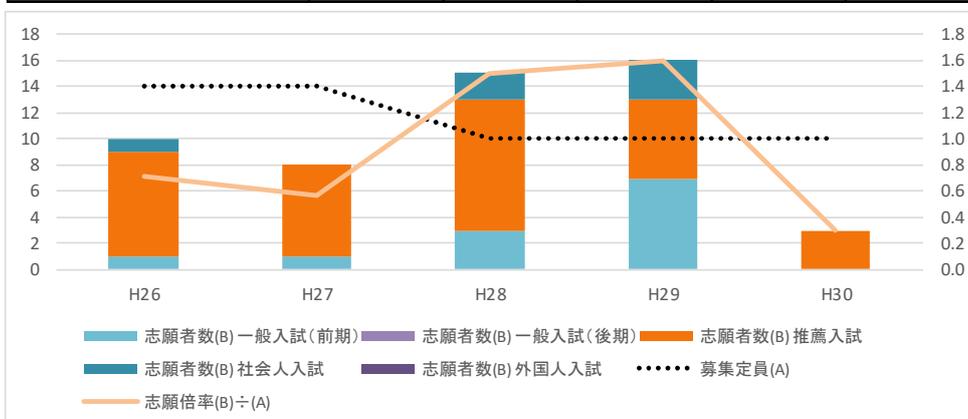
男女比



(2)ー3 琉球芸能専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○琉球芸能専攻 募集定員及び志願者数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	14	14	10	10	10
一般入試(前期)	7	7	5	5	5
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	7	7	5	5	5
社会人入試	若干名	—	若干名	若干名	若干名
外国人入試	—	—	—	—	—
志願者数(B)	10	8	15	16	3
一般入試(前期)	1	1	3	7	0
一般入試(後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	8	7	10	6	3
社会人入試	1	—	2	3	0
外国人入試	—	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)	0.7	0.6	1.5	1.6	0.3



○琉球芸能専攻 H30 一般入試志願者数の傾向

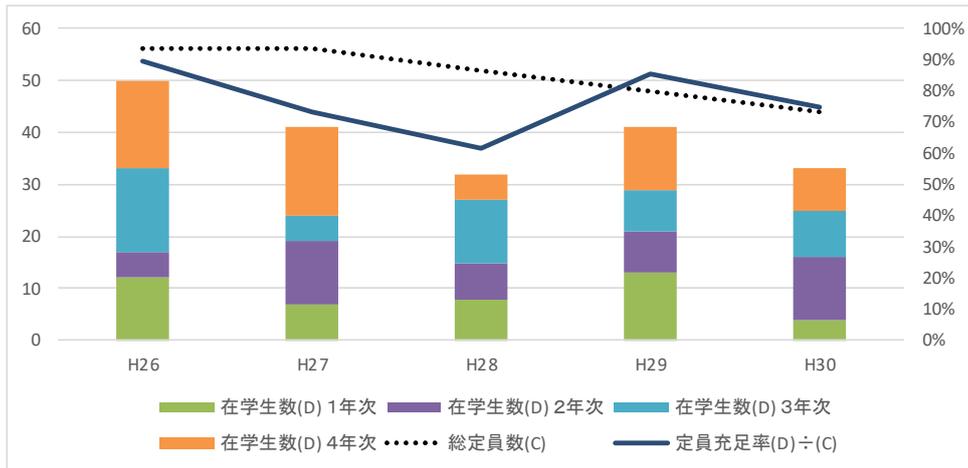
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	0	0	0	0	0	0
一般入試(後期)	—	—	—	—	—	—

◇一般入試(前期)

H30一般入試での受験者なし

○琉球芸能専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	56	56	52	48	44
在学生数(D)	50	41	32	41	33
1年次	12	7	8	13	4
2年次	5	12	7	8	12
3年次	16	5	12	8	9
4年次	17	17	5	12	8
定員充足率(D)÷(C)	89%	73%	62%	85%	75%

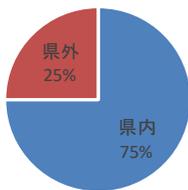


○琉球芸能専攻 H30 在学生の比率

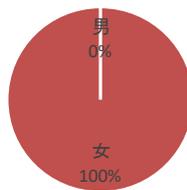
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	3	1	0	4
2年次	8	4	4	8
3年次	8	1	4	5
4年次	8	0	1	7

◇ 1年次

県内・県外比

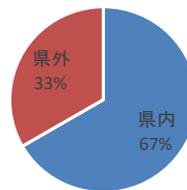


男女比

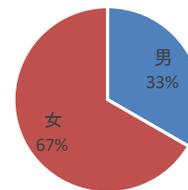


◇ 2年次

県内・県外比

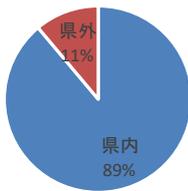


男女比

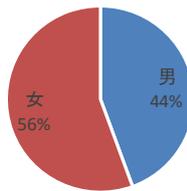


◇ 3年次

県内・県外比

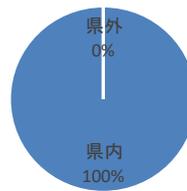


男女比

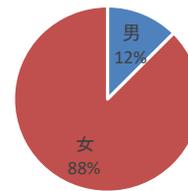


◇ 4年次

県内・県外比



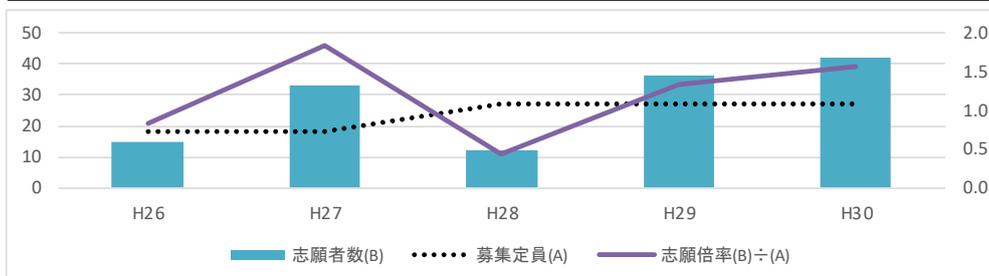
男女比



③ 大学院修士課程 造形芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○ 造形芸術研究科 募集定員及び志願者数の推移

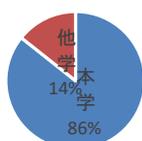
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	18	18	27	27	27
志願者数(B)	15	33	12	36	42
志願倍率(B)÷(A)	0.8	1.8	0.4	1.3	1.6



○ 造形芸術研究科 H30 志願者の傾向

	本学・他学		新卒・過卒		男女	
	本学	他学	新卒	過卒	男	女
志願者	36	6	36	6	12	30

本学・他学比



新卒・過卒比

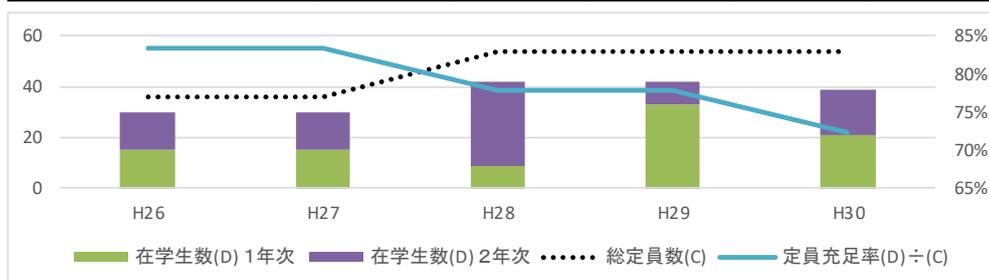


男女比



○ 造形芸術研究科 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	36	36	54	54	54
在学生数(D)	30	30	42	42	39
1年次	15	15	9	33	21
2年次	15	15	33	9	18
定員充足率(D)÷(C)	83%	83%	78%	78%	72%

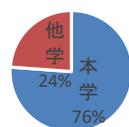


○ 造形芸術研究科 H30 在学生の比率

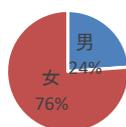
	本学・他学		男女	
	本学	他学	男	女
1年次	16	5	5	16
2年次	13	5	4	14

◇ 1年次

本学・他学比



男女比



◇ 2年次

本学・他学比



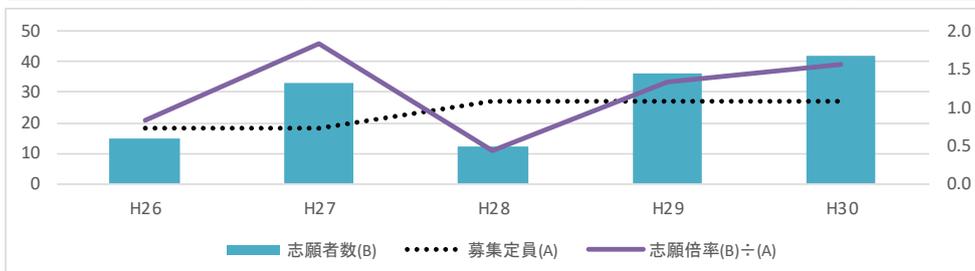
男女比



(4) 大学院修士課程音楽芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○ 音楽芸術研究科 募集定員及び志願者数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	18	18	27	27	27
志願者数(B)	15	33	12	36	42
志願倍率(B)÷(A)	0.8	1.8	0.4	1.3	1.6



○ 音楽芸術研究科 H30 志願者の傾向

	本学・他学		新卒・過卒		男女	
	本学	他学	新卒	過卒	男	女
志願者	36	6	36	6	12	30

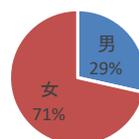
本学・他学比



新卒・過卒比

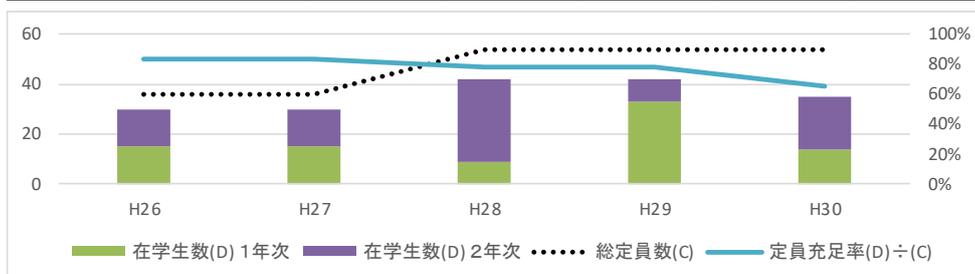


男女比



○ 音楽芸術研究科 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	36	36	54	54	54
在学生数(D)	30	30	42	42	35
1年次	15	15	9	33	14
2年次	15	15	33	9	21
定員充足率(D)÷(C)	83%	83%	78%	78%	65%

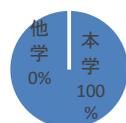


○ 音楽芸術研究科 H30 在学生の比率

	本学・他学		男女	
	本学	他学	男	女
1年次	14	0	5	9
2年次	18	3	10	11

◇ 1年次

本学・他学比



男女比

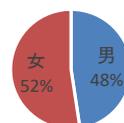


◇ 2年次

本学・他学比



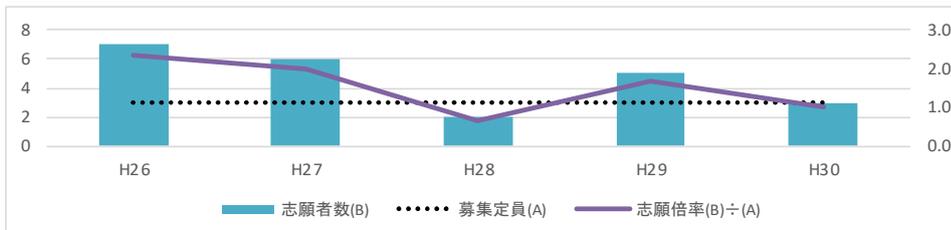
男女比



(5) 大学院後期博士課程 芸術文化学研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移

○芸術文化学研究科 募集定員及び志願者数の推移

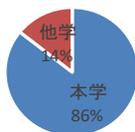
	H26	H27	H28	H29	H30
募集定員(A)	3	3	3	3	3
志願者数(B)	7	6	2	5	3
志願倍率(B)÷(A)	2.3	2.0	0.7	1.7	1.0



○芸術文化学研究科 H30 志願者の傾向

	本学・他学		新卒・過卒		男女	
	本学	他学	新卒	過卒	男	女
志願者	12	2	12	2	4	10

本学・他学比



新卒・過卒比

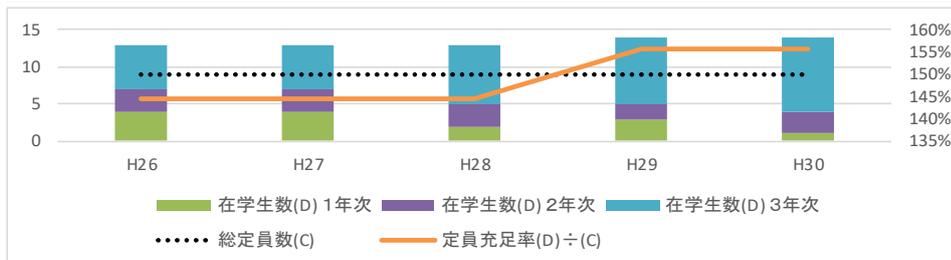


男女比



○芸術文化学研究科 総定員数及び在学生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
総定員数(C)	9	9	9	9	9
在学生数(D)	13	13	13	14	14
1年次	4	4	2	3	1
2年次	3	3	3	2	3
3年次	6	6	6	9	10
定員充足率(D)÷(C)	144%	144%	144%	156%	156%

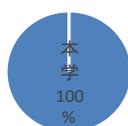


○芸術文化学研究科 H30 在学生の比率

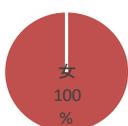
	本学・他学		男女	
	本学	他学	男	女
1年次	1			1
2年次	1	2	2	1
3年次	8	2	4	6

◇1年次

本学・他学比



男女比



◇2年次

本学・他学比



男女比

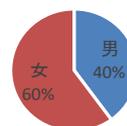


◇3年次

本学・他学比



男女比



⑥ 県計画関連指標

○沖縄 21 世紀ビジョン基本計画【後期改訂版】（芸大関連のみ抜粋）

◆ 県立芸術大学卒業者の就職率（起業含む）

基準値 H23	H25 (H26.3卒)	H26 (H27.3卒)	H27 (H28.3卒)	H28 (H29.3卒)	H29 (H30.3卒)	H30 (H31.3卒)	H31 (H32.3卒)	H32 (H33.3卒)	目標値 H33
58.0%	60.0%	68.7%	72.9%	60.4%	77.6% (62.2%)	(62.9%)	(63.6%)	(64.3%)	65.0%

※（ ）書は計画値を記載

◆ 県立芸術大学卒業生数（累計）

基準値 H23	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値 H33
2,809人	3,098人	3,245人	3,363人	3,500人	3,618人 (3,555人)	(3,680人)	(3,804人)	(3,929人)	4,053人

※（ ）書は計画値を記載

○沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】（芸大関連のみ抜粋）

◆ 成果指標

11 社会の信頼に応える学士課程教育の推進（県立大学）

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
卒業生数(人)	104	118	105	112.4%
教職資格取得者数(人)	50	49	60	81.7%
学芸員資格取得者数(人)	18	22	25	88.0%

12 大学院教育の強化（県立大学）

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
修士課程修了者数(人)	39	21	35	60.0%
博士課程修了者数(人)	1	1	5	20.0%
姉妹校締結校数(校)	10	11	13	84.6%

13 大学の教育研究の推進と基盤の強化（県立大学）

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
プロジェクト等の共同研究数	2	2	—	—
新規	2	1	6	16.7%
継続	0	1	—	—
科学研究費の外部資金の獲得数	9	11	—	—
新規	5	3	12	25.0%
継続	4	8	—	—
地域団体との共同研究数	3	4	5	80.0%

14 大学による社会貢献の推進（県立大学）

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
「公開講座」の開催数	34	53	44	120.5%
展示会開催数(芸術資料館)	17	28	35	80.0%

◆ 活動指標

11 社会の信頼に応える学士課程教育の推進(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
オープンキャンパス参加者数	217	309	250	123.6%
卒業修了制作作品展観覧者数	3,432	5,335	3,500	152.4%
卒業演奏会入場者数	450	490	450	108.9%

12 大学院教育の強化(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
外国人留学生受入数	16	8	13	61.5%
留学生派遣人数	2	4	3	133.3%
単位互換校数	10	10	5	200.0%

13 大学の教育研究の推進と基盤の強化(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
教員の研究論文発表件数	37	38	30	126.7%
実技系教員の作品発表、演奏会数	90	79	130	60.8%
科学研究費獲得のための申請数	7	16	15	106.7%

14 大学による社会貢献の推進(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H28	H29	H33	H29
公開講座参加者数	1,820	2,668	1,900	140.4%
展示会観覧者数(芸術資料館)	6,064	6,843	13,000	52.6%
演奏会入場者数	5,000	5,000	4,500	111.1%
図書館利用者数	17,080	18,687	21,500	86.9%

7 関係資料

(1) 沖縄県立芸術大学基本計画

基本計画策定の意義

沖縄県立芸術大学は、昭和61年の開学から今日までに3,300余名の人材を輩出し、沖縄の豊かな芸術文化の伝統を受け継ぎ、新しい創造的芸術文化の形成及び発展を担ってきた。その間、教育研究で蓄積された資産を広く県民に還元すべく公開講座・文化講座を開催し、また、県民に芸術鑑賞の機会を提供するなど地域社会に貢献してきたところである。本学が平成28年に開学30周年を迎えるにあたり、少子化など大学を取り巻く社会環境の変化に対応していくためには、今一度建学の精神に立ち返り、あるべき姿、自らの将来像を確認する必要がある。

建学の基本的な精神は、沖縄文化が創り上げてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにある。そのためには地域文化の個性を明らかにし、その特性を生かすことでなければならない。そして、伝統的芸術文化とその関連分野について、芸術普遍の見地から研究と教育を行い、今後も沖縄の芸術文化の継承と創造発展に貢献し、それらを担う人材と指導者の育成を図るとともに、太平洋文化圏の中心として汎アジア的芸術文化に特色をおいた研究教育機関たる芸術大学としての存在意義を、学内はもとより県民と共有する必要があるものとする。ここに県立大学として基本計画を策定する意義がある。

基本計画は、「沖縄21世紀ビジョン」、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」、「沖縄県教育振興基本計画」及び「平成25年度実施大学機関別認証評価」を踏まえ、本学の役割、使命、課題への対応について策定していくものであり、次に掲げる事項を基本目標とする。

- 1 学生収容定員の充足
- 2 大学の内部質保証システムの構築
- 3 教育の質の向上
- 4 国際交流の活性化
- 5 社会貢献・社会連携の充実強化
- 6 大学運営の改善

計画の期間

平成28年度から平成33年度までの6年間とする。

第1 学生収容定員の充足に関する取組

- (1) 学部、大学院において定員割れ状態にある専攻等の現状を検証し具体的対策を

早急に講ずる。

- (2) 志願者の減少を改善するため、現行入試（分離分割方式、推薦入試、社会人入試）を検証し、見直しを含めて再検討する。
- (3) 社会人入学を促進するため、大学院において長期履修修学生制度導入を検討する。
- (4) 多様なメディアを活用して県立芸大の潜在的な能力を社会に発信するなど広報活動の充実強化を行う。
- (5) 本学の特色である芸術文化活動の情報発信、教育情報のリアルタイムの提供のために、ホームページを充実するとともに運用の改善を図る。

第2 大学の内部質保証システムの構築

- (1) 本学の評価、改善に係る委員会規程を改正し、大学の諸活動の継続的な自己点検、評価、改善による内部質保証の実施体制を確立する。

第3 教育の質の向上に関する取組

- (1) 学部教育及び大学院教育の質向上
 - ア 本学に相応しいカリキュラムの開発を行う。
 - イ 教員の授業担当時間の実態を把握し、適正な標準持ちコマ数を定め、教員間の負担の格差を解消する。
 - ウ 全学教育の一層の充実を図る。
 - エ 修士課程の実技系専攻において、学術的研究の基礎となる演習科目の充実を図る。
 - オ 修士課程において、国内芸術系大学との単位互換を含む共同交流授業の開発を推進する。
- (2) 研究教育活動の推進
 - ア 研究活動の遂行上のコンプライアンス強化を図る。
 - イ 研究計画書に基づいた研究の推進と、研究成果及び成果の教育への反映について、その事後検証に取り組む。
 - ウ 公的研究費の適正な管理運用を行う。
 - エ プロジェクト研究の推進や研究教育費の有効活用、外部資金獲得などについて組織的な取組を推進する。
 - オ 伝統的芸術分野及び関連分野の研究と教育を推進する。
 - カ 産地及び試験研究機関との有機的な連携を図り、伝統工芸の研究教育体制を強化する。
- (3) 学生への支援強化

- ア 教養教育と専門教育におけるキャリア教育の充実を図り、卒業後を見据えた人材育成を行う。
 - イ 芸術文化の分野に特化・関連した企業や職業にターゲットを絞った求人開拓を行う。
 - ウ 学生の「職業観」の構築と「生きる力」を涵養する。
 - エ 全学的な学生の就学及び学生生活支援の改善を図る。
- (4) 教育研究施設・設備の充実強化
- ア 施設・設備の点検を継続実施し、良好な教育環境を確保する。
 - イ 首里当蔵、首里金城、首里崎山の3キャンパスの効率的な活用を検討する。
 - ウ 附属図書・芸術資料館の活性化に資するために、館運営の改善を図り、利用者のニーズに対応した体制を整備する。

第4 国際交流の活性化に関する取組

- (1) 沖縄の地理的特性をもとに太平洋文化圏における多様な芸術文化とのかかわりを明らかにするため国際交流を積極的に推進する。
- (2) 汎アジア的芸術に特色をおいたユニークな研究教育機関を念頭に、アジア・太平洋の大学、学術関係者との連携を強化し、姉妹校の拡大、教育研究の交流及び国内外の研究者との共同研究を推進する。
- (3) 国際交流を充実させるため、姉妹校の修学内容等の点検を行い、私費留学生の受け入れを含め留学制度を拡充させる。

第5 社会貢献・社会連携の充実強化に関する取組

- (1) 社会連携室を通して地域社会への教育成果の還元を図るとともに一元的に地域貢献活動を把握し、県民にアピールする。
- (2) 地域の芸術分野の団体及び指導者、実践者との交流により、地域の伝統芸術振興に資する取組を推進する。

第6 大学運営に関する取組

- (1) 事務の効率化及び合理化を推進する。
- (2) 評議会、委員会等のあり方を見直し、効率的な運営を図る。
- (3) FD・SD活動を組織的に取り組む。
- (4) 財政健全化に向けた取組を推進する。
- (5) マネジメント（経営・組織等の管理）力の向上を図る。

(2) 沖縄県立芸術大学年度計画（平成 29 年度）

第 1 学生収容定員の充足に関する取組

(1) 学部、大学院において定員割れ状態にある専攻等の現状を検証し具体的対策を早急に講ずる。

【美術工芸学部】

- ・ 入学志願者を増やすため、前年の志願者の分析を行い、分析結果に基づいた効果的な広報を実施する。
- ・ 教員が学内外の大学紹介の場に積極的に赴き、個別面談の機会を設け、教員間で情報の共有に努める。

【音楽学部】

- ・ 各種受験生向け講座等を、志願者のニーズ等を踏まえ計画的に実施する。
- ・ 高校との連携を強化し、合同演奏会、学校訪問、広報活動を積極的に推進する。

【造形芸術研究科】

- ・ 造形芸術研究科（入試）説明会を年に二回実施するほか、開講授業の一部を公開することで、学生等に修士課程がどのような授業を実施しているか、知ってもらう機会を設ける。

(2) 志願者の減少を改善するため、現行入試（分離分割方式、推薦入試、社会人入試）を検証し、見直しを含めて再検討する。

【美術工芸学部】

- ・ 推薦入試の県内枠及び全国枠の情報発信がさらに必要である。専攻における一般入試の分離分割方式の検討を行う。また、推薦入試の定員数の変更に関する検討を行う。

【音楽学部】

- ・ 推薦入試の実施方法について、定員も含め検討する。

【音楽芸術研究科】

- ・ 他大学や他専攻を想定した入試制度の見直し

(3) 社会人入学を促進するため、大学院において長期履修学生制度導入を検討する。

【美術工芸学部】

- ・ 志願者を増やすため、オープンキャンパスの充実や、リーフレットによる広報活動を強化する。

【造形芸術研究科】

- ・長期履修学生制度の導入したい方向で意見がまとまっている。現在、県にその可能性を問い合わせている段階である。

(4) 多様なメディアを活用して県立芸大の潜在的な能力を社会に発信するなど
広報活動の充実強化を行う。

【美術工芸学部】

- ・ホームページの充実を図り、SNSを活用した情報提供を促進する。また、英語版のホームページを用意し、海外に向けて情報発信を行う。

【音楽学部】

- ・地元紙、メディアに取り上げてもらえるような企画、演奏会を立案し、広報室を通じて積極的に発信する。

【造形芸術研究科】

- ・研究科のリーフレット（英語併記）を作成するほか、比較芸術学専攻においてウェブサイトの充実を図る。

【音楽芸術研究科】

- ・広報室との連携

【事務局】

- ・県広報課や、県内メディアを活用した情報発信に努める。

(5) 本学の特色である芸術文化活動の情報発信、教育情報のリアルタイムの提供のために、ホームページを充実するとともに運用の改善を図る。

【美術工芸学部】

- ・ホームページの内容をこれまで以上に充実させ、志願者に対して幅広い情報提供を行うほか、閲覧者数の拡大へと繋げる。

【音楽学部】

- ・ホームページの更新を円滑に行うスキームを構築する。

【音楽芸術研究科】

- ・HP 更新状況の改善要望

【事務局】

- ・ホームページの情報を最新に保つほか、適切な情報発信に努める。

第2 大学の内部質保証システムの構築

(1) 本学の評価、改善に係る委員会規程を改正し、大学の諸活動の継続的な自己点検、評価、改善による内部質保証の実施体制を確立する。

【美術工芸学部】

- ・授業評価アンケートによる改善や、個々の科目の自己点検による改善も試み

る。

【音楽学部】

- ・授業評価アンケート及び演奏会毎のアンケートの改善と活用を行う。
- ・FD 委員会の改善要望

【事務局】

- ・本学の教育・学習環境の自己点検、評価及び改善を図るため、全学的に事業検証を行い、本学の教育・学習環境の改善を図る。

第3 教育の質の向上に関する取組

(1) 学部教育及び大学院教育の質向上

ア 本学に相応しいカリキュラムの開発を行う。

【美術工芸学部】

- ・教育内容の質の向上を目指すため、実技基礎力の明確化と検証、教員間の関係の強化。

【音楽学部】

- ・平成 28 年度より実施している学科再編、カリキュラムの変更の検証・改善を行い教職課程認定に向け一層の充実を図り、時間割の適正化に取り組む。

イ 教員の授業担当時間の実態を把握し、適正な標準持ちコマ数を定め、教員間の負担の格差を解消する。

【美術工芸学部】

- ・授業担当時間の実態を把握や適正な標準持ちコマ数の調査・確認を行う。

【音楽学部】

- ・教員の持ちコマ数を調査し、格差の解消になるような人事になるよう協議する。

ウ 全学教育の一層の充実を図る。

【美術工芸学部】

- ・著作権、知的所有権、税制に関わる授業の検討。
- ・卒業後、独り立ちするためのカリキュラムを構築する。弁理士、税理士などに講義を依頼するなど、新たな関連科目を検討する。

【音楽学部】

- ・履修指導の充実を専攻全体で行うほか、教員の全学教育への参与を推進する。

エ 修士課程の実技系専攻において、学術的研究の基礎となる演習科目の充実を図る。

【美術工芸学部】

- ・特色ある共通授業のカリキュラム開発を検討し、教育の質の向上に取り組む。
- ・演習科目の増設を検討する。

オ 修士課程において、国内芸術系大学との単位互換を含む共同交流授業の開発を推進する。

【美術工芸学部】

- ・女子美との単位交換プログラムのカリキュラムを再検討するほか、国内他大学に広げることを検討する。

【音楽学部】

- ・東京芸術大学との交流授業が、専攻全体、コース全体で実施が可能になるように計画する。

【造形芸術研究科】

- ・女子美術大学との交流展の開催

(2) 研究教育活動の推進

ア 研究活動の遂行上のコンプライアンス強化を図る。

【音楽学部】

- ・各教員に周知を徹底し、研修を設ける。
- ・学科室を通じた研究費の処理と会計報告

【事務局】

- ・教員、大学院生、学部生、共同研究員、他研究機関に所属する科研分担者へ不正防止計画に基づく研修を受講させるほか、不正防止計画に基づく監査を実施する。

イ 研究計画書に基づいた研究の推進と、研究成果及び成果の教育への反映について、その事後検証に取り組む。

【音楽学部】

- ・研究計画に従い、円滑に実施されるように努めるとともに、教員評価により適切に教育の成果があったかを検証する。

ウ 公的研究費の適正な管理運用を行う。

【音楽学部】

- ・各教員が公的研究費の適正な管理運用を適切に実施する。
- ・該当する各教員が実施

【事務局】

- ・財務規則等の会計規定の遵守を徹底する。

エ プロジェクト研究の推進や研究教育費の有効活用、外部資金獲得などについて組織的な取組を推進する。

【音楽学部】

- ・レクイエムコンサートなどを実施することで、外部資金の獲得に向けて積極的な姿勢を打ち出していく。
- ・30周年記念事業論文集の刊行

【事務局】

- ・学内公募資金の活性化、学外資金の推進に努める。

オ 伝統的芸術分野及び関連分野の研究と教育を推進する。

【音楽学部】

- ・琉球芸能と洋楽の融合した新たな音楽の方法を模索する。
- ・琉球芸能における理論教育の充実
- ・「琉球語Ⅰ・Ⅱ」「詞章研究Ⅲ」の新設科目導入
- ・舞踊理論分野・音楽理論分野の先任教員から新任教員への引き継ぎの研究
- ・「ソルフェージュⅠ～Ⅳ」の教授法改革

【音楽芸術研究科】

- ・琉球芸能における理論教育の充実

カ 産地及び試験研究機関との有機的な連携を図り、伝統工芸の研究教育体制を強化する。

【事務局】

- ・沖縄県三線製作事業協同組合との連携協定に基づき、有機的な連携を図る。

(3) 学生への支援強化

ア 教養教育と専門教育におけるキャリア教育の充実を図り、卒業後を見据えた人材育成を行う。

【美術工芸学部】

- ・卒業生の活動支援の為、卒業生の就職状況の再調査を行う。
- ・芸術分野のキャリア教育に資するため、専門教育において非常勤講師として多様な人材を招聘する。
- ・継続検討事項。本専攻では常に求人開拓をしているところであるが、今後ますます強化する。就職活動へ繋がる専門授業の強化。

【音楽学部】

- ・オリエンテーションや研究室単位での進路指導の充実を図る。

【造形芸術研究科】

- ・芸術分野のキャリア教育に資するため、専門教育において非常勤講師として多様な人材を招聘する。

イ 芸術文化の分野に特化・関連した企業や職業にターゲットを絞った求人開拓を行う。

【美術工芸学部】

- ・卒業生の活動支援の為、卒業生の就職状況の再調査を行う。
- ・関連分野の企業等を積極的に招き、企業説明会や求人情報取得に関する活動を行う。

【音楽学部】

- ・求人情報をチェックし、必要な情報を得られるように努め、得られた情報を指導に生かす。
- ・新コースに伴う関連企業との連携

【事務局】

- ・学生の専門性が活かせるクリエイティブな業種・職種を中心とした就職先の開拓に努める。

ウ 学生の「職業観」の構築と「生きる力」を涵養する。

【美術工芸学部】

- ・卒業生の活動支援の為、絵画専攻の卒業生の就職状況の再調査を行う。
- ・継続検討事項。授業における生活、職業に関する項目の重点化を検討。卒業生等を招き、ロールモデルを見せながら職業観をやしなう。

【音楽学部】

- ・学生とのコミュニケーションをとり、各教員の指導を充実させ適切に指導する。
- ・オリエンテーション等による進路指導の充実

【事務局】

- ・企業や官公庁が行うインターンシップの周知に取り組み、学生の就職意欲の向上をはかる。

エ 全学的な学生の就学及び学生生活支援の改善を図る。

【美術工芸学部】

- ・継続検討事項。

【音楽学部】

- ・各教員の指導を充実させ、学生の就学に対し適切な情報を共有するとともに、的確に助言する。
- ・教員同士の連携による学生の情報の共有化

【事務局】

- ・学生相談活動の充実のため、オリエンテーションや学生定期健康診断時を活用し学生相談室の周知を図る。また、教職員を対象とした研修（障害学生の対応方法等）や情報提供を行う。
- ・入学料及び授業料減免制度、日本学生支援機構をはじめとする各種奨学金の貸与と給付事務について適正な実施を行う。

(4) 教育研究施設・設備の充実強化

ア 施設・設備の点検を継続実施し、良好な教育環境を確保する。

【美術工芸学部】

- ・授業においてIT機器の使用頻度が高まり、支障の出ないように環境の改善を図る。
- ・施設設備の点検を実施。特に浸水対策やカビ対策を強化する。

【音楽学部】

- ・施設・設備の不足に対する改善要望をする。
- ・奏楽堂設備・講義室等の機材の改善要望

【事務局】

- ・インフラ改修について中期計画を策定する。

イ 首里当蔵、首里金城、首里崎山の3キャンパスの効率的な活用を検討する。

【美術工芸学部】

- ・シャトルバスの適切な運用方法について検討する。

【音楽学部】

- ・首里当蔵キャンパスの効率的な活用を検討するとともに、施設不足を補うための対策を検討する。
- ・研究所との連携

【事務局】

- ・各キャンパスの効率的な活用を検討する。

ウ 附属図書・芸術資料館の活性化に資するために、館運営の改善を図り、利用者のニーズに対応した体制を整備する。

【美術工芸学部】

- ・必要図書の検討。学生、教員に図書館利用についてのガイダンスを強化する。

【音楽学部】

- ・教員自ら附属図書館・芸術資料館を積極的に利用し、学生へも積極的な利用を促す。

【附属図書・芸術資料館】

- ・運営改善に視する取組みの促進や、システム活用による機能充実・サービス向上に資する取組みを行うほか、資料館の活性のため、外部資金の獲得を目指す。

第4 国際交流の活性化に関する取組

- (1) 沖縄の地理的特性をもとに太平洋文化圏における多様な芸術文化とのかかわりを明らかにするため国際交流を積極的に推進する。

【美術工芸学部】

- ・絵画専攻の版画教育の向上、姉妹校との連携強化を図るため、過去2回開催した国際交流展「版と言葉」展の実行委員会を開き、反省点を確認し開催可能性の検討に入る。
- ・ミラノ・ビッコカ大学との交流は継続していきたい。今年も2名を後期に受け入れる予定。
- ・デザイン専攻に見合った姉妹校の検討（イタリア、フランスなど）。また、現在交流のある外国の大学との交換留学を推進する。

【音楽学部】

- ・ストリートライトケイデンスの受け入れなど、姉妹校交流や国際交流を積極的に推進する。

【事務局】

- ・地理的、社会的及び歴史的諸条件によって特色づけられる研究領域に重点をおいた学術交流を推進する。

- (2) 汎アジア的芸術に特色をおいたユニークな研究教育機関を念頭に、アジア・太平洋の大学、学術関係者との連携を強化し、姉妹校の拡大、教育研究の交流及び国内外の研究者との共同研究を推進する。

【美術工芸学部】

- ・姉妹校であるチェンマイ大学芸術学部との教育・学術交流を展開する。
- ・沖縄県立芸術大学&国立台湾藝術大學学術交流協定締結記念「沖縄・台湾芸術大学交流展2017」開催において中心的業務を担う。
- ・韓国との研究者交流を具体的にすすめて行く予定。
- ・現姉妹校への交換留学を推進し、拡大を検討する。

- ・インドネシア国立芸術大学デンパサール校との教育交流を深める。

【音楽学部】

- ・西洋音楽を通じてアジア・太平洋の大学、学術関係者との連携を強化し、教育研究の交流及び国内外の研究者との共同研究等を推進する。
- ・インドネシア国立芸術大学デンパサール校（ISI、バリ島）との国際交流を推進する。

【造形芸術研究科】

- ・女子美術大学との共同企画による “2017HAIKU - Sculpture International Exhibition for Art Universities in Asia” を開催する。
- ・台北藝術大学との教員の相互派遣事業 “2017 Exchange Workshop for Sculpture Arts” の実施

【事務局】

- ・州立ハワイ大学及び連邦所管の東西センターと文化・学術交流、共同研究を実施する。(5カ年計画) また、国立台湾芸術大学と新たに、姉妹校締結を予定。

- (3) 国際交流を充実させるため、姉妹校の修学内容等の点検を行い、私費留学生の受け入れを含め留学制度を拡充させる。

【美術工芸学部】

- ・国際交流室の運営の流れを再確認。受け入れを積極的に行う。

【音楽学部】

- ・姉妹校への留学生の派遣、受け入れを積極的に行う。
- ・福建師範大学から留学生の受け入れ（前期）

【事務局】

- ・「国際交流協定に関するガイドライン」を新たに制定し、協定を5年毎に見直す方針とする。また、留学生受入に係る国際交流の体制整備を図る。

第5 社会貢献・社会連携の充実強化に関する取組

- (1) 社会連携室を通して地域社会への教育成果の還元を図るとともに一元的に地域貢献活動を把握し、県民にアピールする。

【美術工芸学部】

- ・地域連携室をとおして、地域貢献プログラムとを実施することで地域の企業や公共団体との交流を推進する。

【音楽学部】

- ・社会連携室との情報交換を密にし、地域連携事業（演奏・各種講座）や出前コンサートを積極的に実施する。

【事務局】

- ・大学ホームページにおいて地域貢献のページを社会連携室のページにリニューアルする。また、社会連携室の果たす役割について、検討を行い適切に対応する必要がある。

(2) 地域の芸術分野の団体及び指導者、実践者との交流により、地域の伝統芸術振興に資する取組を推進する。

【美術工芸学部】

- ・地域貢献プログラムを精査し、適切な方法で実施する。
- ・地域の芸術関係機関等との連携、支援を目的として、展覧会等を企画、実施する。
- ・教養講座において、「おきなわ県民カレッジ」の連携講座となるよう申請を行う。

【音楽学部】

- ・地域の合奏団や県内小中高等学校、沖縄県吹奏楽連盟、国立劇場などとの連携を強化する。

【造形芸術研究科】

- ・OISTにおける展覧会を引き続き開催する。

【付属研究所】

- ・文化講座、移動大学の実施により、地域の伝統芸術振興を推進する。

第6 大学運営に関する取組

(1) 事務の効率化及び合理化を推進する。

【音楽学部】

- ・学科室や教員、事務局員での効率的な事務作業の分担を確認し、効率化を図る。
- ・学科室における業務経験の蓄積

【事務局】

- ・事務の効率化及び合理化について学内の理解を求める。

(2) 評議会、委員会等のあり方を見直し、効率的な運営を図る。

【音楽学部】

- ・適切な委員の選出を検証し、情報共有できる委員のあり方を検討する。
- ・コース別でない委員の選出

【事務局】

- ・自己点検・評価委員会規程の制定に併せて、委員会の統廃合を検討する。

- ・評議会における外部委員のあり方について整理を行うなど、委員会等の適切な開催に努める。

(3)FD・SD活動を組織的に取り組む。

【音楽学部】

- ・FD・SD活動の本来の意味を理解し、授業評価アンケートや授業公開にとどまらず具体的に対策する。
- ・新任教員への業務の伝授

【事務局】

- ・FD活動については、教員の資質向上を図るため、授業評価アンケートや授業公開を実施する。
- ・SDの義務化に伴い研修計画を策定するほか、名桜大学及び県立看護大学との連携協定に基づき、教務事務や学生支援業務等個別テーマを設定し、研修会を実施する。

(4)財政健全化に向けた取組を推進する。

【事務局】

- ・新たな取組みに係る財源捻出のため、予算の選択と集中を行う。

(5)マネジメント（経営・組織等の管理）力の向上を図る。

【事務局】

- ・マネジメント力向上に向け、必要な取組を行う。